



Spring プロジェクト

幼保小接続期から

学びにわくわくを！

令和7年2月

静岡県幼児教育センター

Springプロジェクト

幼保小接続期から 学びにわくわくを！

これは試案です。
令和7年6月以降に静岡県幼児
教育センターのホームページに
完成版を掲載します。



令和7年2月

静岡県幼児教育センター

はじめに

近年、乳幼児の頃からの質の高い教育がその時期の発達にとって重要であることや、その後の人生において長期にわたって多面的によい効果をもたらすことなどが明らかにされてきています。今後更に、全ての子どもに格差なく質の高い幼児期の教育を保障することや、子ども一人一人のよさや可能性を伸ばしながら、生涯にわたる生活や学習の基盤となる生きる力の基礎を育てて行く体制を整えていくことが求められています。一方、外国にルーツのある子どもや発達に特性のある子どもが年々増加しており、幼児期の教育を取り巻く環境は一層厳しさを増しています。

静岡県幼児教育センターでは、静岡県教育振興基本計画（2022～2025年度）に示されている「誰一人取り残さない教育の実現」に向けて、2022年度から3年間、尚絅学院大学特任教授 小池敏英氏をスーパーバイザーに、常葉大学保育学部准教授 赤塚めぐみ氏を研究リーダーに、インクルーシブ教育保育研究「Springプロジェクト」を進めてきました。

本研究は、幼児期から支援を開始することの教育的効果についての調査・研究ですが、いわゆる早期教育とは本質的に異なり、生涯にわたる学習の基礎「後伸びする力」を培うことや、全ての子どもの育ちを促すことなど、子どもに寄り添い一人一人のよさを伸ばすという教育理念のもと、取り組んできました。

研究推進委員会を中心に沼津市と共同開発しました「1年生スタート応援シート」は、子どもがもっているよさを小学校入学後にも生かしていくためのツールとして、今後活用していただくことができます。

また、保育ソーシャルワーカーの実践をもとにまとめた外部人材の「活用事例」は、チームで対応するための園内体制や小学校との連携体制の構築、保護者や保育者支援など、外部人材の専門的視点を園運営に取り入れるモデルになります。

さらに、赤塚研究リーダーを中心に、沼津市、磐田市の園での実践協力のもと、ひらがなの読み書き学習を支える力につながる「Springプログラム」を開発しました。本プログラムは、現時点で子どもがどう学んでいるかを確認するための「アセスメント」と、アセスメント結果に応じて実践できる「あそびプログラム」で構成されています。本プログラムの開発により、担任がクラスの中で子どもの困り感や支援の程度を見極め、あそびを通して子どもにあった支援が届く体制が整いました。

これまで本研究にご協力いただいた沼津市、磐田市の皆様に感謝申し上げますとともに、今後県内外でプログラム等を広く活用していただきますことにより、本研究が全ての子どものWell-Being向上の一助となれば幸いです。

静岡県幼児教育センター 幼児教育推進室長

石川 和 巳

静岡県幼児教育センターには、「わっ！ぴょん」というイメージキャラクターがいます。この「わっ！ぴょん」は、幼稚園・保育所・こども園・小学校が連携して作り出す「和」と「輪」、また、その「わ」の中で就学前から小学校にかけての段差を「ぴょん」と飛び越えていく、そんな思いのもとで名づけられたそうです。

私たちが3年かけて取り組んできたSpringプロジェクトは、Shizuoka Primary-education system “ring” を正式名称とし、通称を「Spring」と言います。「わっ！ぴょん」と「Spring」の名称は、別々に生まれましたが、偶然にも共通した意味を含む大切な名前となりました。

幼児期は、発達の個人差が大きい時期です。その子らしさを存分に発揮して伸び伸び過ごしてほしいと願いながらも、このまま小学校に上がって大丈夫かな、と心配することもあります。それでも、多くの子どもは卒園が近づくにつれて、「もうすぐ小学生になるんだ」、「小学校に行ったら、勉強を頑張りたい」と夢や憧れを語り始めます。幼児期の教育に携わる私たちは、そんな子どもたちの誰もが、小学校への段差をぴょんと飛び越えてほしいと願っています。

文部科学省（2022）によれば、小学校1年生において著しい困難を示すのは行動面に比べて学習面で目立っており、その割合は9%を超えています。小学校は勉強するところだと教わり、これを頑張りたいと入学した子どもたちが、1年生の段階から学習でつまづく可能性が高いという現実。この課題解決に取り組むことこそが、静岡県の教育が目指す「全ての子どものWell-Beingの実現」につながるのではないかと考えました。また、子どもとその家族が多くの専門家に支えられ、子ども自身がもちうる力を最大限に発揮しながら、幼児期の教育ならではの環境下であそび、学ぶ。これを、一人一人の子どもの実態に合わせて実現できれば、その先に生じるかもしれない二次的な困り感を軽減できるのではないかと考えました。

幼保小接続期の子どもに対する支援方法は、様々に提案されていますが、その効果に対する科学的証拠はまだ十分ではありません。Springは、これに挑んだ数少ない研究事業の一つであり、一定の成果を得ることができました。そこには、教育行政や幼児期の教育に関わる関係各所の皆様、プロジェクトメンバー、スーパーバイザーの尚絅学院大学 小池敏英教授、そして何より愛らしい笑顔で私たちを迎えてくれた研究協力園・研究協力校の子どもたちとその保護者の皆様のお力添えがありました。ここに記して深謝いたします。

本研究が一人でも多くの子どもと、その育ちを支える皆様に届き、役立てていただけましたら幸いです。

常葉大学 保育学部保育学科 准教授

赤塚めぐみ

4	小学校入学後にできる支援	61
	(1) 読み書き学習になじむために	61
	(2) 配慮と支援	62
	①音韻操作	③視空間認知
	②聴覚記憶	④基本語彙

第3章

子どもの育ちをつなげよう - つなぐ -

1	子どもを支えるチームをつくる	72
	【活用事例】	
	(1) 保護者に寄り添う	74
	(2) 園を支える	76
	(3) 園と小学校をつなぐ	78
2	幼保小がつながるために	80
	(1) 幼児期の育ちを小学校へつなぐ	80
	(2) 一人一人のよさをつなぐツール	82

第4章

これまでの解説 - ふかめる -

1	幼保小接続期にある子どもたちと「ことば」	84
2	読み書き学習とそれを「支える力」の育ち	84
3	Springプログラムにおける4つの「支える力」	85
4	学ぶことを楽しむために	87
5	学びの多様性	88
6	多様な子どもの支援	89

	おわりに	91
	引用・参考文献	92
	ダウンロード資料一覧	93

第1章

みつめる

生きる力を育む幼児期の教育

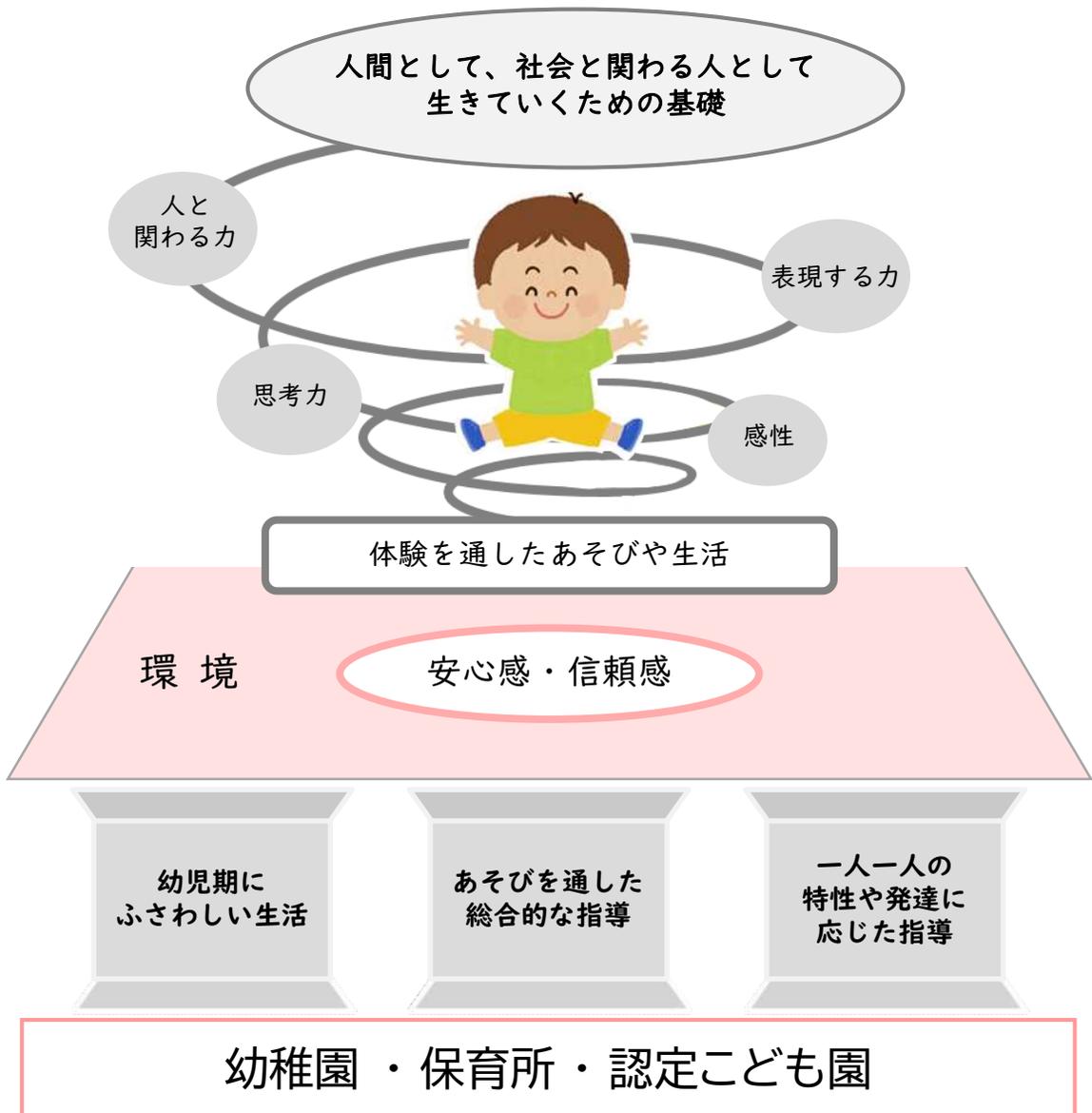


1 幼児期の教育の 基本

幼児期の教育は、あそびを中心とした生活の中で、生涯にわたる「人格形成の基礎」を培っています。

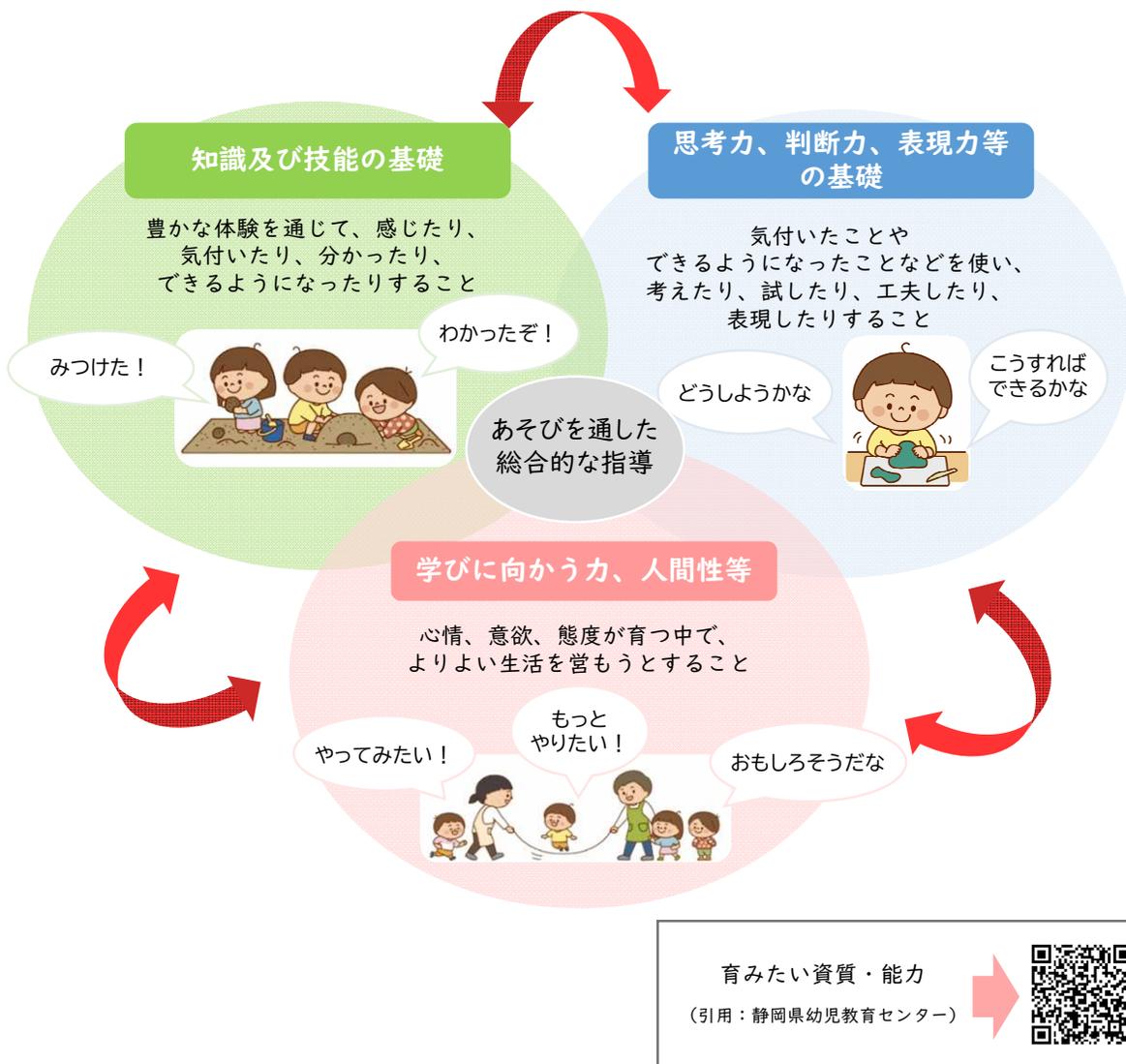
体験によって育つ様々な力

園では、幼児期にふさわしい生活を展開する中で、子どものあそびや生活といった直接的・具体的な体験を通して、人と関わる力や思考力、感性や表現する力などを育み、人間として、社会と関わる人として生きていくための基礎を育てています。



幼児期に育みたい資質・能力

園では、生きる力の基礎を育むため、次に挙げる資質・能力をあそびを通して一体的に育んでいきます。育みたい資質・能力は、幼児期から高校まで貫かれています。



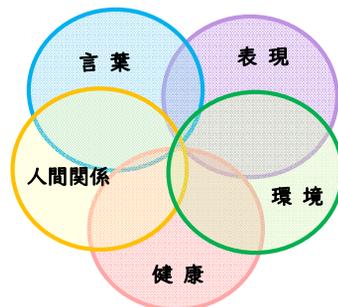
5領域のねらい及び内容に基づき育む

各領域の「内容」をあそびや生活の中で総合的に展開し、幼児期にふさわしい経験と学びを生み出していきます。

【幼児期：5つの領域】



幼児期は
あそびや生活を通して
育っていくんだね



2 環境を通して行う 幼児期の教育

幼児期の教育は、発達の特徴を踏まえ、
環境を通して行います。

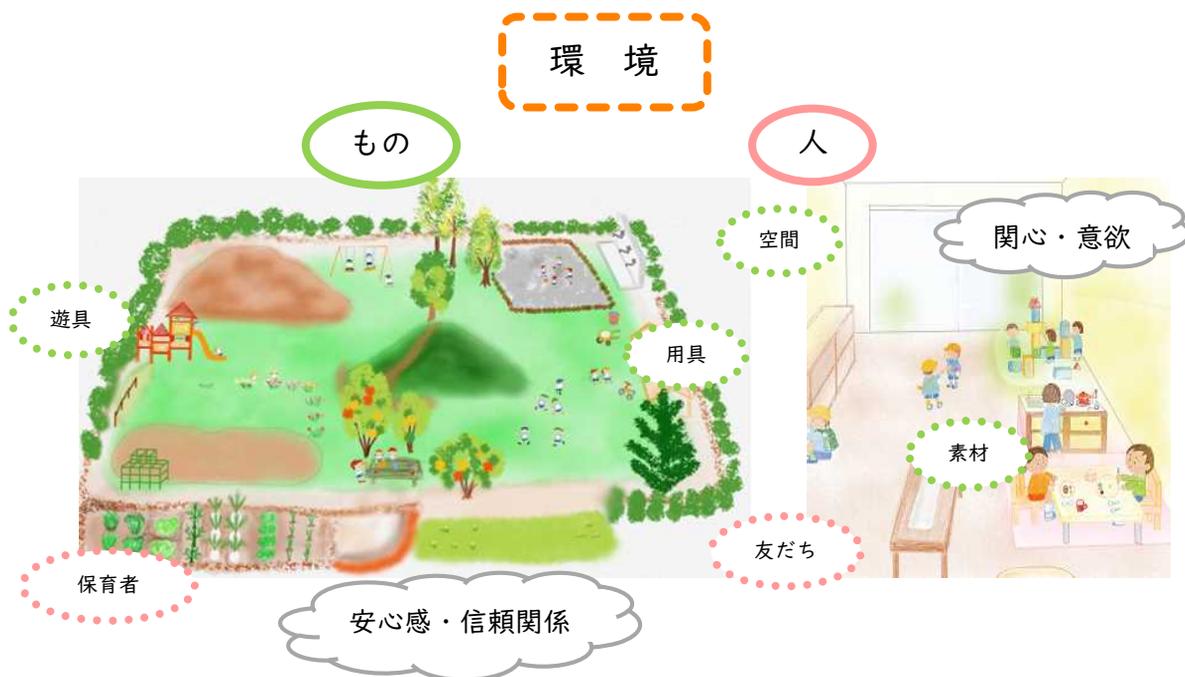


幼児期の教育は「環境を通して行うもの」って
いうけれど、それってどういうこと？

幼児期に
ふさわしい生活

環境を通して行う教育

幼児期は、興味や欲求に基づいた直接的・具体的な体験を通して力が培われていきます。
幼児期の教育は、環境の中に教育的価値を含ませながら、子どもたちが自ら周囲に働き掛け
て試行錯誤を繰り返し、発達に必要なものを獲得していくことを目指します。



環境を通して行う教育は、遊具や用具を配置して後は子どもたちの動くままに任せるといったものではありません。また、保育者が知識や技能を教えたり、一方的に押しつけたり詰め込んだりするものでもありません。

保育者も環境の一部です。物的環境の構成に取り組んでいる保育者の姿や仲間の姿があつてこそ、環境への興味・関心が生み出されるのです。

子どもの主体性と保育者の意図

保育者は子どもと生活を共にしながら、子どもが今、何に興味を示しているのか、何を感じているのかなどを捉えます。そこに保育者の意図をもって環境を整えていきます。子どもたちが興味・関心をもち自らあそびたくなるような環境を整えていくことが大切です。

また、子どもたちの興味や関心に即しながらも、子どもたちの中にどのような育ちを期待したいか、そのために必要な経験は何かを考え、環境を構成していきます。

▶5歳児の砂あそびの様子から、「子どもの主体性と保育者の意図」を見てみましょう。

保育者の意図



子どもの主体性

3 幼児期は あそびが学び

幼児期は、あそびを通じた体験の中で、頭や体、心をいっぱい動かして総合的に学んでいきます。

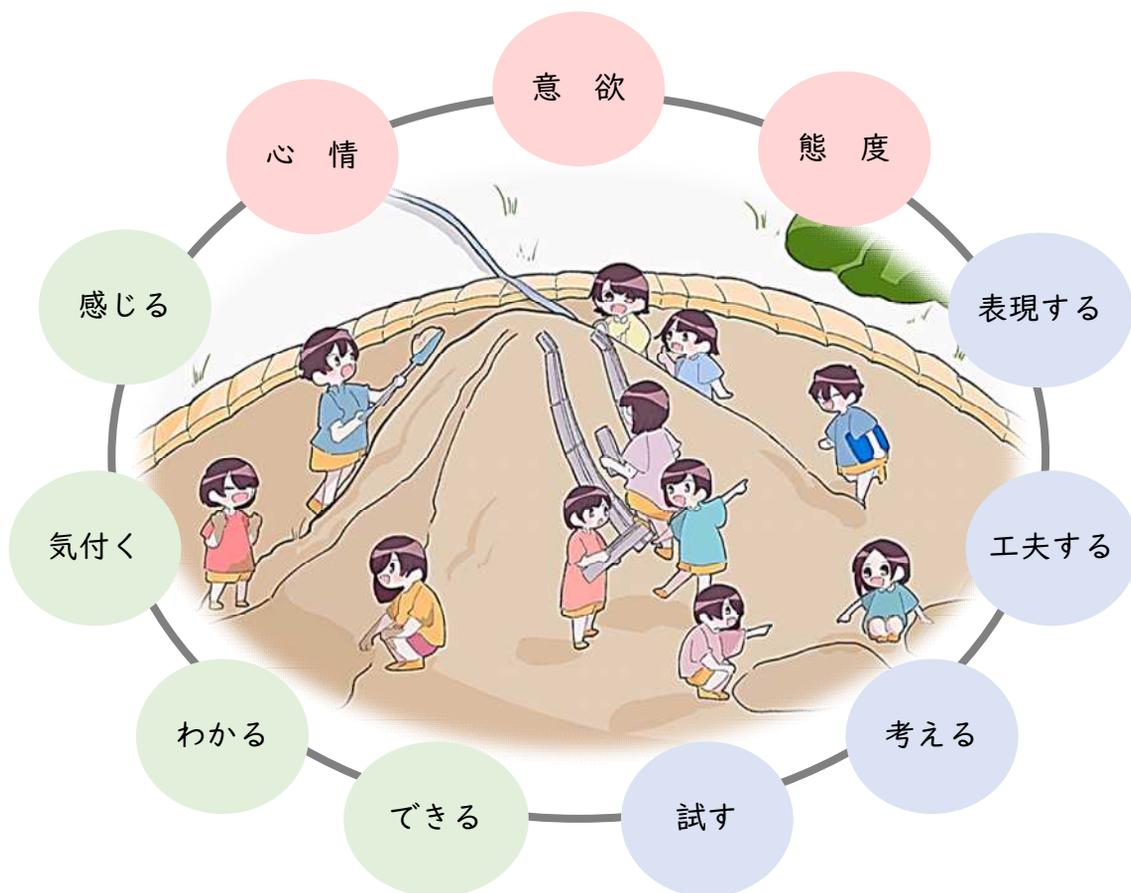


あそびを通してどんなことを学んでいるの？

あそびを通じた
総合的な指導

あそびの中の多様な学び

面白さのあるあそびの中で、子どもは「気付く力」や「試す力」「人と心のつながる力」「体の感覚」「伝える力」「やり抜く力」などたくさんの力を伸ばしていきます。



人生に必要な知恵は
すべて幼稚園の砂場で学んだ

ロバート・フルガム(著)・池 央歌(訳)
「人生に必要な知恵は すべて幼稚園の砂場で学んだ」河出書房新社より

ひとつのあそびの中にも、
子どもの成長や学びが
いっぱいあるね



あそびの中の学びを見取る

大人（保育者や教員）は、あそびの中にある子どもの成長や学びを見取る目をもつことが大切です。

自発的なあそびには学びがいっぱい！

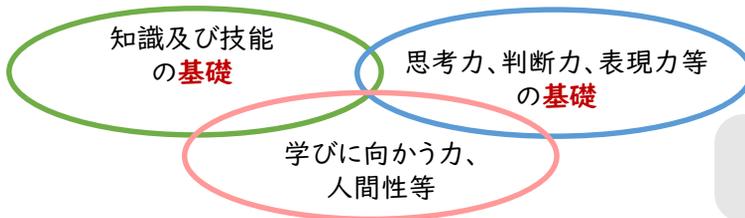
<p>心情</p> <p>活動に興味をもち、心を弾ませて取り組む。</p>	<p>意欲</p> <p>物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。</p>	<p>態度</p> <p>人との関わりの中で心動かす出来事を共有する。</p>
<p>感じる</p> <p>砂や水に触れる体験を通して、物質のもつ性質や不思議さを感じ取る。</p>	<p>気付く</p> <p>砂や水に触れる体験を通して、物質のもつ性質や不思議さに気付く。</p>	<p>わかる</p> <p>自然の仕組みに心を動かし、それらを取り入れてあそぶ。</p>
<p>考える</p> <p>体験を通して発見したり、どうすればもっとおもしろくなるか考える。</p>	<p>工夫する</p> <p>体験を通して、身近な物に十分にに関わり、繰り返し試したりして工夫する。</p>	<p>表現する</p> <p>体験を通してイメージを広げ、自分なりに表現して楽しむ。</p>

4 学びの つながり

幼児期の教育と小学校教育、互いの教育を理解することで、学びのつながりが見えてきます。

幼児期の教育と小学校教育の共通点と相違点

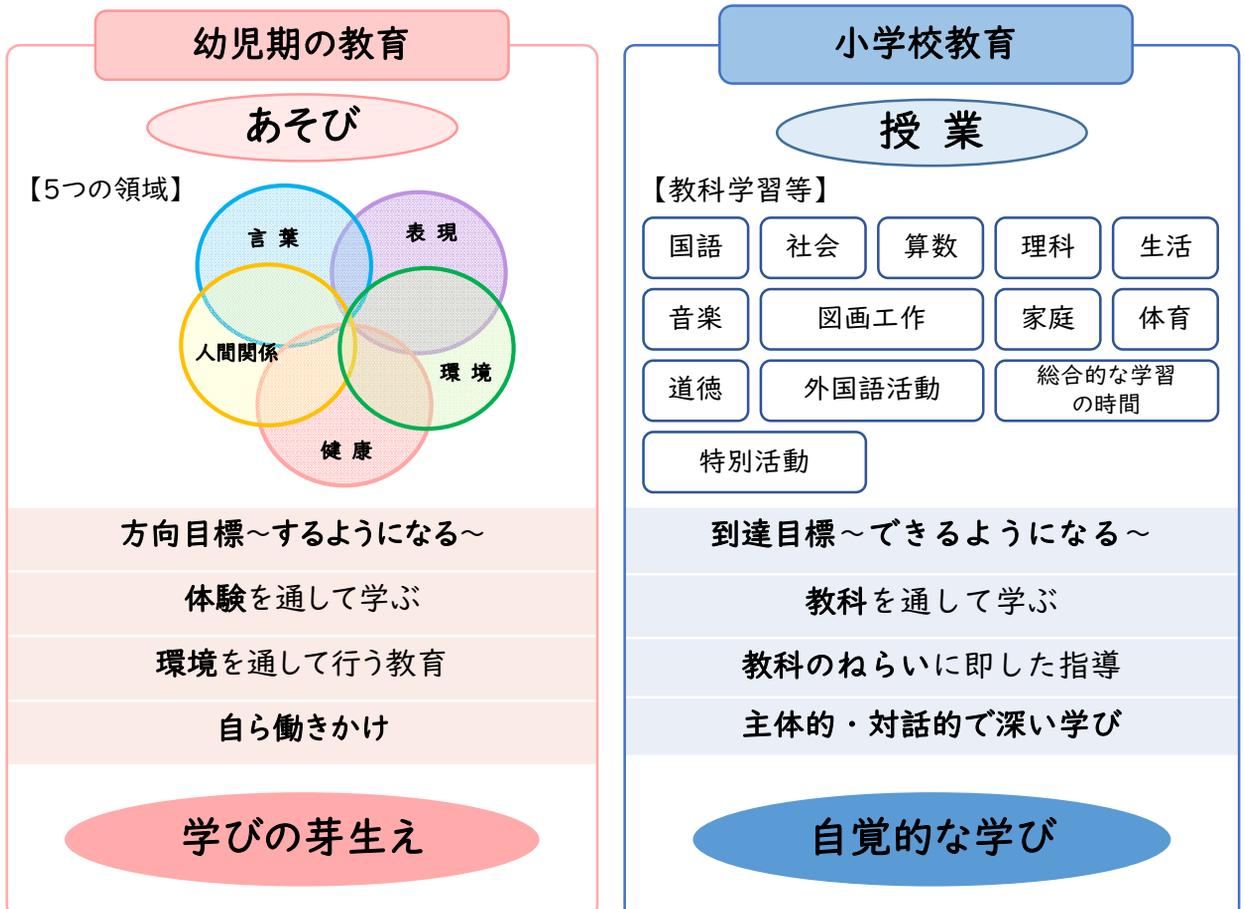
共通点 育みたい「資質・能力」は幼児期の教育と小学校教育で同じです。



幼児期は「**基礎**」を育てるんだね



相違点 子どもの発達に合わせて教育方法は異なります。



幼児期の学びを小学校での学びにつなぐ

幼児期の教育においては、あそびを通して小学校以降の学びの芽を育て、小学校ではその学びの芽をさらに伸ばしていくことが大切です。

小学校教育

教科等による学び

自覚的な学び



小学校学習指導要領の各教科の「指導計画の作成と内容の取扱い」にも、幼児期の教育との関連が記されています。

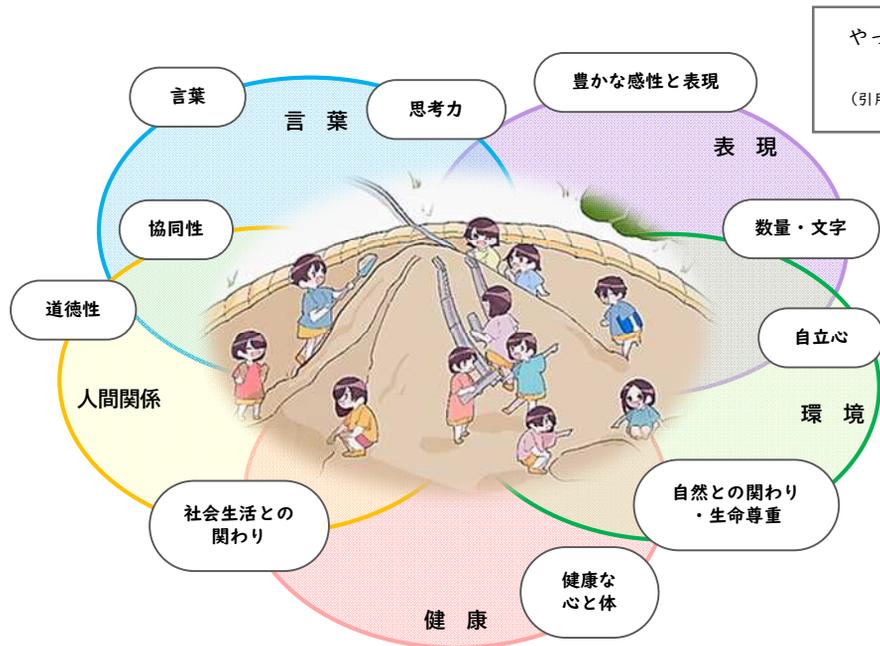
小学校では、幼児期におけるあそびを通じた総合的な学びから各教科等の学習に円滑に移行し、主体的に自己を発揮しながら、より自覚的な学びに向かうことが可能になるようにすることが大切です。



幼児期の教育

具体的な体験
あそびを通じた学び

学びの芽生え



やってみたいが
学びの芽
(引用：文部科学省)

「幼児教育と小学校教育がつながるってどういうこと？」 (引用：文部科学省)



▶ 教科ごとの幼児教育と小学校教育のつながり



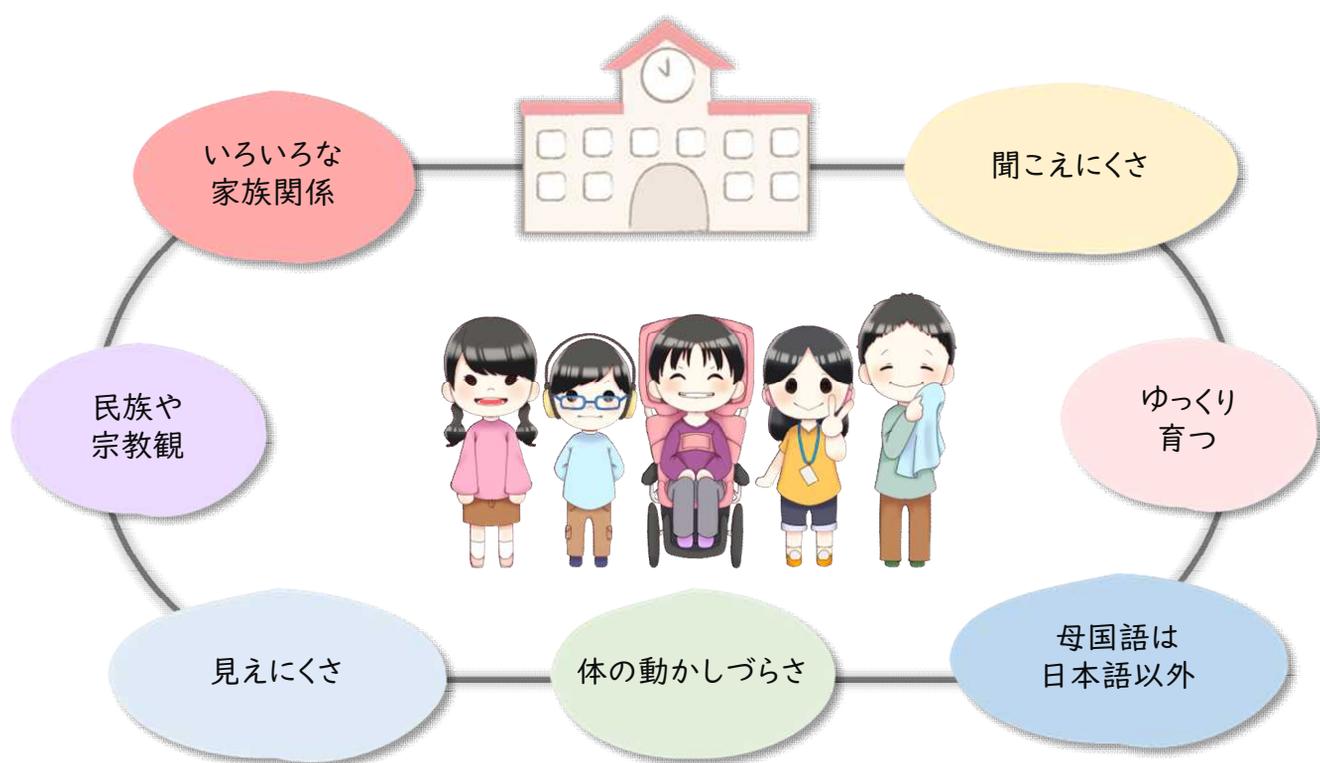
5 その子らしさを 引き出す

「背景が違えば、育ち方もいろいろ」であることを理解して関わりましょう。

「その子らしく」集団生活に参加する

一人一人の
特性や発達に
応じた指導

何でも一人でできることを目指すのではなく、その子らしい方法で、園での生活や活動にいきいきと参加できる方法を探し、認め、継続することが大切です。



障害の診断があれば、特別な支援をするのですよね？
家庭環境や文化の違いは、診断がなくても支援の対象ですか？

「特別な支援」とは、

- その子もっている力を存分に発揮できていない
 - 自分らしく生活できていない とき、
- その子らしさを引き出すために、オーダーメイドな（カスタマイズされた）働きかけをすることです。



階層的に支援する

インクルーシブ保育をよりよく進めていくためには、支援を「する」か「しない」かの2択で考えるのではなく、「どのくらいの手助けがあると活動しやすいのかな？」とどの場面で、どの程度の支援をするのかを考えます。

多層指導モデル (RTIモデル)



～ 自分に合った取り組み方を、自分で選んで、自分で決める経験を大切に ～

同じ子どもでも、多くの支援が必要な場面と、ほとんど支援がいらない場面があります。そのため、「どの場面・どのタイミングで手助けすると活動しやすいか」を保育者が知っておくとスムーズに支援ができます。

その子がもつ力を最大限に発揮して活動できるよう支援します。

第2章

はぐくむ

Springプログラム



1 Spring プログラム

Springプログラムは、
幼保小接続期の子どもを対象にしています。

Springプログラムの目的

幼児期は、発達の個人差が大きいと言われています。5歳児にもなると、「このまま小学校に行って大丈夫かな。」と心配になることがあるかもしれません。

小学校に入学すると教科学習が始まり、幼児期に比べ文字に触れる機会が急速に増えます。このSpringプログラムは、こうした環境の変化に子どもたちが自然になじんでいけることを目指し、幼保小接続期の子どもを対象にして作成しました。



どんなふうに「**学びの芽**」が育っていたらいいのかな？

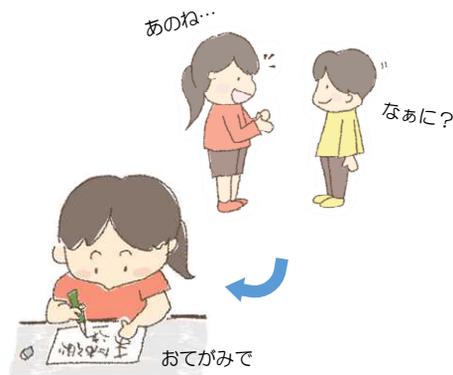
幼保小接続期は、「聞く・話す」から「読む・書く」へ伝え方（ことば）の選択肢が増える時期です。絵本の文字を自分で読んだり、友だちとのお手紙ごっこを楽しんだりする姿を見せる子もいます。

一方、子どもの中には文字への興味・関心が薄いように見える子や、読みたくても読む力が育ちにくい子もいます。

子どもたちが文字に自然になじんでいくためには、基礎となる力を丁寧に育てていくことが大切です。

ただし…

★ 「読む・書く」といっても、ひらがなを読ませたり、書かせたりすることではありません。



幼児期だからこそ培っておきたい力があります。

音韻操作

聴覚記憶

視空間
認知

基本語彙

— ひらがなの読み書き学習を支える力 —

ひらがなの読み書き学習を支える力とは

音韻操作

「あひる」には
3つの音があるね。



ひらがなを読むためには、ことばがいくつの音から成り立っているのかを分析する力（音韻分解）や、ことばから特定の音を取り出す力（音韻抽出）が必要です。

ひらがな単語をすらすら読むためには、ことばから音を消す力（音韻削除）が大切です。

聴覚記憶

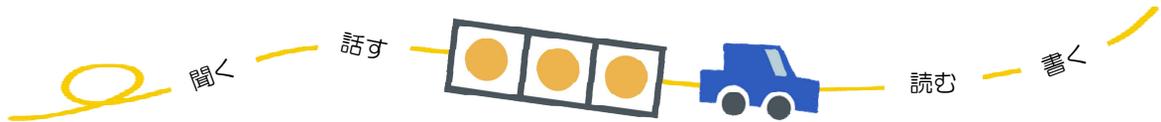
「2、3」って
数字を真似して
言ってみよう。



「くまる」って
真似して
言うんだね。

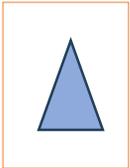
ひらがなだけでなく漢字の読み書き学習においても、聞いて記憶する力（聴覚記憶）は影響します。

特に、ひらがなを読むためには、「くまる」のように意味を成さない単語（非単語）を覚えて、復唱する力が関係するようです。



視空間 認知

【見本】



同じ形は…？



文字は視覚情報なので、正しく読むためには「見る力（視空間認知）」が必要です。

「い」と「こ」は、似た部品が向き合っていますが、縦方向の線と横方向の線の違いが分かると、違う字であることが分かります。

このように、形の向きを正しく判断できることが大切です。

基本語彙

意味が分かると
ことばが耳に
残りやすいね。



お話を聞くの
楽しいな。

日常生活や絵本に出てくることばの意味が分かることは、音韻操作に先立つと考えられています。

語彙が豊富であることは、読み書き学習の助けになります。

これらの力が身についていると、ひらがなを読んだり、書いたりする準備が進んでいきます。そのための「Springアセスメント」と「Springあそびプログラム」を次に紹介します。

2 Spring アセスメント

Springアセスメントとは、
保育を工夫するための「子ども理解」を言います。

Springアセスメントから分かること

Springアセスメントとは、保育を工夫するための「子ども理解」を言います。そのため、いわゆる発達特性の把握とは異なります。「得意」や「苦手」など発達凸凹ではなく、ひらがなの読み書き学習を支える力をどのように身につけているのかが分かります。

NO! Springアセスメントは、発達障害等の診断ツールではありません。

また、Springアセスメントは、「現時点」での力を“確認”するものです。あそび方や学び方を変えると、その力は変化します。

《アセスメントの利点》

子ども理解が深まるので、
今、目の前の子がどのような経験を必要としているのかが分かります。

どんな保育を
したらいいか
分かるね！



Springアセスメントキット

Springアセスメントを実施するにあたり必要な物を以下に記しました。

【資料のマーク **資料**】のついたものは、静岡県幼児教育センターホームページからダウンロードして使用することができます。

詳しくは、ダウンロード資料ページ (P 93) をご覧ください。

○実施マニュアル **資料**

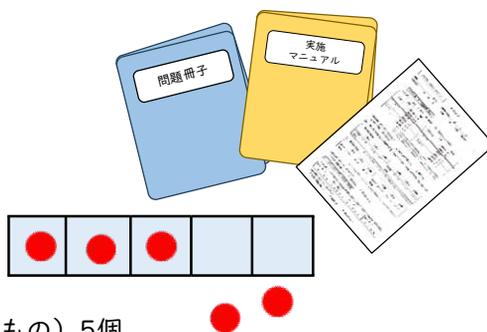
○問題冊子 **資料**

○記録用紙 **資料**

○筆記用具

○音韻操作の台紙 **資料**

○マグネット（またはそれに代わるもの）5個



(1) 実施方法

対象：5歳児～

アセスメントのコツ

次のことに気を付け、子どもと楽しみながら取り組みましょう！



🕊️ リラックスした雰囲気

- 子どもが力を発揮できるよう、リラックスした雰囲気づくりを。
- 子どもが気持ちよく取り組めることを最優先します。
- 質問に子どもが答えられないなどの様子があれば、まずは取り組める課題から始めましょう。

👍 ジャッジしない

- 子どもに「正解」か「間違い」かのフィードバックは行いません。
- 正解しても、しなくても、課題に向き合う姿勢を評価し、励ましてください。
- 「できない」ことに、がっかりする必要はありません。これから育ちます。

🕒 見守る（誘導しない）

- よい点数を取ることが目的ではありません。子どもの実態把握が目的です。
- 正しい答えを誘導するような働きかけはしません。

👁️ 子どもを観察する

- 正解したかどうかだけでなく、どのように問題を解いたかを記録します。
- 同じ問題、同じ解答でも、子どもによって取り組み方が違います。このことをよく観察しましょう。

① この音、なあに？

- 《準備物》
- ◆ マグネット(またはこれに代わるもの)・・・5個
 - ◆ 音韻操作の台紙



<p>練習問題</p> <p><例題> いし</p>	<p>1) はじめに、子どもの前に音韻操作台紙を置き、「今から、『この音なあに？』のクイズをします」と言います。</p> <p>2) 「やり方を説明します」と言ってから、検査者は、音韻操作台紙の上に「いし」と言いながらマグネットを置きます。「い」「し」という音に、マグネットが1つずつ対応するようにおいてください。</p> <p>3) 「今のようにやります。」と言ってから、子どもにマグネットを5個渡します。</p> <p>4) 「では、あなたも『いし』と言いながら、マグネットを置いてみてください」</p> <p>教示が理解できない場合には、もう一度だけ見本を見せます。 それ以上は繰り返さず、できなくても本課題に移ります。</p>
<p>本課題</p> <p><問題:計6題></p> <p>① いぬ ② つめ ③ ほし ④ あたま ⑤ つくえ ⑥ とけい</p>	<p>子どもに、マグネットを5個渡してから、次のように言う。 『『いぬ(第1問)』と言いながら、マグネットを置いてください』(音韻分解)</p> <p>→(分解ができたなら、すぐに)</p> <p>① 最初に置いたマグネットを指さして、次のように言う。 「この音は、なんという音でしたか？」(語頭音の抽出)</p> <div style="text-align: center;"> </div> <div style="border: 1px dashed red; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>教示が理解できていないようなら、 「ここに置いたとき、何と言いましたか？」と 言い換えても良い。</p> </div> <p>② 続いて、最後に置いたマグネットを指さして、次のように言う。 「この音は、なんという音でしたか？」(語尾音の抽出)</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>→(6単語とも分解ができなかったら、音韻抽出は行わない。)</p>
<p>留意事項</p>	<p>➢ 子どもに正誤のフィードバックは行わない。</p>
<p>中止条件</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>語頭音と語尾音の 各課題で2/3の誤 答を確認したら中止。</p> </div>	<p>ア) 各文字数で、音韻分解が3問中2問以上不正解の場合には、抽出は行わない。</p> <p>イ) 6つの単語で音韻分解ができた場合、2文字の語頭音の抽出が3問中2問以上不正解の場合には、3文字の抽出課題は行わない(負担軽減のため)。</p> <p>ウ) 6つの単語で語頭音の抽出がすべてできて、2文字の語尾音の抽出が3問中2問以上不正解の場合には、3文字の語尾音は行わない(負担軽減のため)。</p>

② 消したらなになかな？

《準備物》 ◆ なし

<p>練習問題 ＜例題＞ いし</p>	<p>子どもの前には何も置かないで、次のように例示する。</p> <p>身振りなどは伴わず、言語指示のみとする。</p> <p>「今から、『消したらなになかな？』というゲームをします。これは、私の言ったことばから、ひとつだけ音を消すゲームです。」</p> <p>「例えば、『いし』から“い”を消してください、と言いますので、『いし』から“い”を取ると、どんな音が残るかなと考えてください。」</p> <p>『いし』から“い”を消すので、“し”が残ります。だから、答えは『し』です。分かりましたか。」</p> <p>「では、やってみましょう。あなたも、『いし』ということばから“い”を消してみてください。どうぞ。」</p> <p>指示が理解できない場合には、もう一度だけ見本を示します。</p> <p>それ以上は繰り返さず、できなくても本課題に移ります。</p>
<p>本課題 ＜問題：計6題＞</p> <p>① いぬ ② つめ ③ ほし ④ あたま ⑤ つくえ ⑥ とけい</p>	<p>子どもの前には何も置かないで、次のように例示する。</p> <p>身振りなどは伴わず、言語指示のみとする。</p> <p>① 語頭音の削除課題 「『いぬ(第1問)』から“い”を消すと、どうなりますか？」</p> <p>② 語尾音の削除課題 「『いぬ』から“ぬ”を消すと、どうなりますか？」</p>
<p>留意事項</p>	<p>➤ 子どもに正誤のフィードバックは行わない。</p>
<p>中止条件</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>語頭音と語尾音の各課題で2/3の誤答を確認したら中止。</p> </div>	<p>ア) 2文字の単語のうち、語頭音の削除が3問中2問以上不正解の場合には、3文字の課題は行わない(負担軽減のため)。</p> <p>イ) 6つの単語で語頭音の削除がすべてできて、2文字の語尾音の削除が3問中2問以上不正解の場合には、3文字の語尾音は行わない(負担軽減のため)。</p>



③ 字のかくれんぼ

《準備物》 ◆ 問題冊子

練習問題	なし
本題 <問題:計4題>	<p>子どもの前に、問題冊子「字のかくれんぼ」のページを開いて置き、 「今から、『字のかくれんぼ』というゲームをします。」と言う。 子どもから見て、左側にある見本の文字を指さして、 「これを見てください。これと同じものは、どれですか？」と尋ねる。</p> <p>できなくても、すべて実施する。</p>
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 子どもに正誤のフィードバックは行わない。 ➢ 記録の際、選択肢番号は図版の検査者側・左隅に示された数字に従う。
中止条件	なし

④ ひらがなの読み



《準備物》 ◆ 問題冊子

練習問題	なし
本題 <問題:計20題>	<p>子どもの前に、問題冊子「ひらがなの読み」のページを開いて置き、 「次に、知っているひらがなはあるかな？と、教えてもらいたいと思います。読め ても、読めなくてもいいです。」と言う。 子どもから見て、最も左側にある文字「の」を指さして、 「ここから順番に読んでください。分からない文字は飛ばしてもいいです。」と教 示する。</p> <p>できなくても、すべて実施する。</p>
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 子どもに正誤のフィードバックは行わない。
中止条件	なし

⑤ まねしてみよう a

《準備物》 ◆ なし

練習問題	<p>子どもの前には何も置かないで、次のように例示する。 身振りなどは伴わず、言語教示のみとする。 「今から、まねっこゲームをします。最初は、数字のまねっこです。」 「はじめに、私が数字を言います。私が言い終わったら、私が言ったとおりに真似をして言ってください。では、ひとつ練習です。2-3（に・さん）」</p> <p>できなくても、そのまま本課題に進む。</p>
本題 ＜問題：計8題＞	記録用紙にしたがって、2桁、3桁、4桁、5桁の数列を読み上げ、復唱させる。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> 子どもに正誤のフィードバックは行わない。
中止条件	2桁、3桁、4桁のうち、各桁数で2題とも誤答の場合には、そこで中止。

まねしてみよう b

《準備物》 ◆ なし

練習問題	<p>子どもの前には何も置かないで、次のように例示する。 身振りなどは伴わず、言語教示のみとする。 「今度は、不思議なことばのまねっこゲームです。」 「はじめに、私が不思議なことばを言います。私が言い終わったら、私が言ったとおりに真似をして言ってください。『ほち』」</p> <p>できなくても、そのまま本課題に進む。</p>
本題 ＜問題：計9題＞	記録用紙にしたがって、2文字、3文字、4文字の非単語を読み上げ、復唱させる。 できなくても、すべて実施する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> 子どもに正誤のフィードバックは行わない。
中止条件	なし

⑥ かたちのクイズ

《準備物》 ◆ 問題冊子

練習問題	なし
本題 <問題:計8題>	<p>子どもの前に、問題冊子「かたちのクイズ」の表紙ページを開いて置き、「これから、『かたちのクイズ』をします。」と言う。</p> <p>準備が整ったら、問題ページを開く。</p> <p>上段の見本図形を指差しながら、「ここを見てください。これと同じものは、どれですか」と尋ねる。</p> <p>できなくても、すべて実施する。</p>
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 子どもに正誤のフィードバックは行わない。 ➢ 記録の際、選択肢番号は図版の検査者側・左隅に示された数字に従う。
中止条件	なし

⑦ ことばのクイズ

《準備物》 ◆ 問題冊子

練習問題	なし
本題 <問題:計27題>	<p>子どもの前に、問題冊子「ことばのクイズ」の表紙ページを開いて置き、「これから、『ことばのクイズ』をします。これは、ことばに合う絵を選ぶゲームです。」と言う。</p> <p>準備が整ったら、問題ページを開く。</p> <p>『あかちゃん(第1問)』は、どれですか? と尋ねる。</p> <p>できなくても、すべて実施する。</p>
留意事項	<p>子どもに正誤のフィードバックは行わない。</p> <p>記録の際、選択肢番号は図版の検査者側・左隅に示された数字に従う。</p>
中止条件	なし



(2) 結果の見方

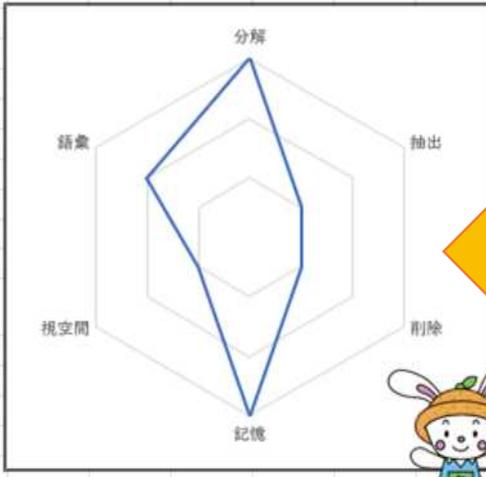
アセスメントの結果から分かること

アセスメントの結果は、今の時点での子どもの育ちを表すものです。体力測定のように一過性のものであり、今後のあそびや生活状況によって、変わりうるものです。この結果が、発達障害などの診断に直結するものではありません。

つながりシート

園名 わっぴょんこども園		クラス うさぎ	
なまえ しずおか たろう 静岡 太郎			
生年月日 2018/9/1	実施日 2024/9/3	実施時の年月齢 6歳 0ヶ月	

音韻		視覚記憶	視空間認知	基本語彙
分解	抽出	削除		
	**	**	**	*



■視空間認知(見たものの形や空間を認識する力)
ークラス全体に見本を示すだけでなく、大人が目の前や隣に座って、個別に見本を示すと活動しやすくなります。その際、見てわかりそうなことも、改めて言葉にして伝えると良いです。
ー図や記号の形を把握するのに、とても時間がかかるようです。お手本と見比べると、図の向きや全体像など、複数の情報を捉えることが難しいかもしれません。紙に描くことよりも、手で触るとか、実際に動かすとかが良いかもしれません。

■基本語彙
ークラス全体や説明があると、一音段よく聞のがいくつか、後に少しやさしになります。

◆結果は、【空欄】または【*】または【**】の3種類で記録されます。

- 【空欄】 ひらがなの読み書き学習を支える力が十分に育っています。(第1層)
- 【*】 あそびの中で経験すると、ぐんと育つ位置にいます。(第2層)
- 【**】 その子に分かりやすい方法で、じっくり丁寧にあそべるように保育環境を工夫しましょう。(第3層)

上記の表と同じ情報が、レーダーチャートでも確認できます。

○この情報を就学予定の小学校と共有してもよろしいですか？

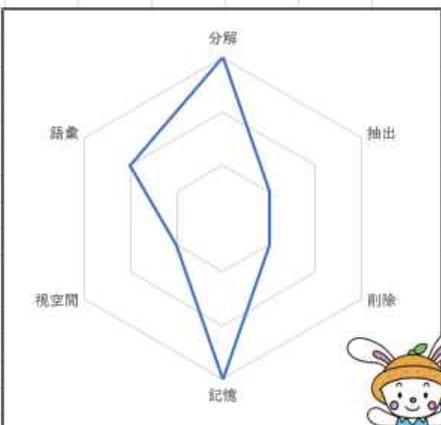
【 はい ・ いいえ 】

保護者署名： _____

つながりシート

園名 わっぴょんこども園	クラス うさぎ	
なまえ しずおか たろう 静岡 太郎		
生年月日 2018/9/1	実施日 2024/9/3	実施時の年月齢 6歳 0ヶ月

音韻			聴覚記憶	視空間	基本語彙
分解	抽出	削除	認知	認知	語彙
	**	**		**	*



【 所 見 】

■音韻操作(ことばの音を操作する力)

ークラス全体への指示や説明だけでなく、個別に分かりやすい言葉で伝え直したり、手掛かりを与えたりするなど、手厚い働きかけによって活動しやすくなります。
ー言葉を構成する「音」の操作には、とても時間がかかるようです。クラスのペースで行うには、負担が大きいかもかもしれません。苦手に配慮した働きかけがあることで、活動に参加しやすくなります。

■聴覚記憶(聞いた情報を覚える力)

ー必要な力が順調に身についています。
ークラス全体への声掛けによって活動できます

■視空間認知(見たものの形や空間を認識する力)

ークラス全体に見本を示すだけでなく、大人が目の前や隣に座って、個別に見本を示すと活動しやすくなります。その際、見てわかりそうなことも、改めて言葉にして伝えると良いです。
ー図や記号の形を把握するのに、とても時間がかかるようです。お手本と見比べると、図の向きや全体像など、複数の情報を捉えることが難しいかもしれません。紙に描くことが難しい場合は、形を体で表したり、紐を使って表したりするなど、様々な感覚を通して表現する機会を増やすと理解が促されます。

■基本語彙

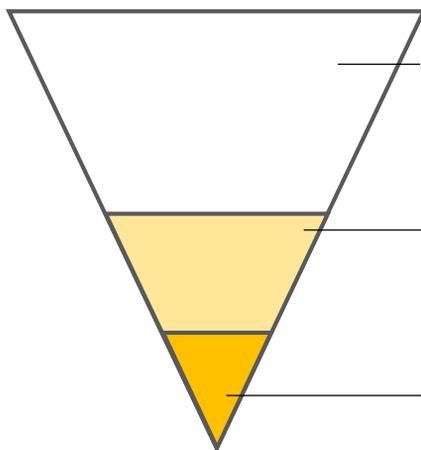
ークラス全体への指示や説明に加えて、個別の注意喚起や説明があると活動しやすくなります。
ー普段よく聞いている言葉でも、意味を取り違えているものがいくつかありそうです。指示や説明場面では、話の最後に少しやさしい表現に言い換えることで活動がスムーズになります。

○この情報を就学予定の小学校と共有してもよろしいですか？

【 はい ・ いいえ 】

保護者署名：

ここで、RTIモデルを思い出しておきましょう。(P17)



- ◆第1層 ... いつもの保育環境の中で、自分なりに考えたり、挑戦したりしながら活動するタイプ
- ◆第2層 ... クラスの中で「ちょっとした」手助けがあることで、いきいきと活動できるタイプ
- ◆第3層 ... 「じっくり丁寧な」手助けがあることで、自分らしく活動できるタイプ

まずは、クラス全体でどの領域に「*」や「**」が多いかを見ながら、その領域に関連したあそびプログラムに取り組んでみましょう



3 Spring あそびプログラム

研究協力園での実践を含め、
取組の方法を紹介します。

(1)クラスの中でのあそびプログラム

アセスメントで「育ちの弱さ」を確認したら、その育ちを促すあそびに取り組みます。活動名の右側に＜音韻操作＞のように示しました。弱さのある項目のあそびを選んで、「いつもの手あそび」のひとつとして、取り組んでみてください。

朝の会
帰りの会で

給食の前に

読み聞かせの
前に

おやつの後に



楽しく取り組むために



- 1 簡単なあそびからやってみましょう。
あそびの中で扱うことばは、短いことばや、子どもがよく知っていることばから始めましょう。
- 2 保育者と子どものどちらかに負担のある時は、あそび方やグループの人数などを見直しましょう。
- 3 **1日5分程度、週に2～3回**くらいの飽きない頻度で取り組みましょう。



うまくいかないときは、**スモールステップ**で

- 指導案の「こんな子いませんか？」を参考にしてください。
- 子どもが楽しめることを最優先に、あそび方を調整します。
- 自由あそび場面で、個別または小グループでやってみましょう。
- ヒントはたくさん出してOK！



取組による変容

Springプログラムに取り組むことで、子どものことばへの関心の高まりや、保育者の子ども理解が深まるといった変容が見られました。

【実施した保育者の声】

子どもの変容



繰り返しあそぶ中で、子どもたちの発する単語のバリエーションが増えました。

Springの手あそびで刺激されたのか、日常会話の中で、「『とけい』は3つの音だね!」と話す姿が見られるようになりました。

保育の変化

あそびの目的がはっきりしているため、しっかり理解して取り組んでいる子と、なんとなく見よう見真似で取り組んでいる子の違いが分かるようになりました。

「なんとなくできているように見える子」は、個別で丁寧にあそぶようにしました。

【子どもたちの様子】

次はぼくが先生役をやる！
問題をつくれるようになったよ

友だちに教えてもらったり、
教えてあげたりしたよ

3文字のことばは簡単！
次は5文字のことばで
チャレンジしようよ！



私は3文字だと
分からなくなっちゃう…
もう1回2文字にしよう？

園長より



クラスでの取組を見ていると、第2層の子どもたちが伸びている様子が感じ取れます。

保育室や職員室で、目に留まったもののことば（窓や電気など）を使って、その場ですぐにあそぶことができる手軽さがいいですね。子どもたちから「園長先生、またやって!」と声をかけてくるようになりました。

▶Springあそびプログラム内にある、【資料のマーク 】のついた準備物（教材）は、静岡県幼児教育センターホームページからダウンロードして使用することができます。

詳しくは、ダウンロード資料ページ（P 93）をご覧ください。





ことばあつめあそび

～「やおやおみせ」で～

音韻分解
音韻抽出

聴覚記憶

視空間
認知

基本語彙

- 《ねらい》
- ◆指定された音の数で構成される単語を答えることができる。
 - ◆単語がいくつの音で成り立っているかが分かる。
 - ◆単語のはじまりの音が分かる。

- 《準備物》
- 【必ず用意するもの】 なし
- 【あると便利なもの】 ことば図鑑 イラストカード
ホワイトボードとマグネット など

《あそび方》

「やおやおみせ」(作詞 早川進/作曲 坪田幸三)を
替え歌アレンジした手あそびです。



(やおやおみせ)

https://youtu.be/_zXed-VA48c



“2文字”のことばを考えてみよう



“2文字”のことばはなんだろう？



よく見てごらん



考えてごらん



あったらふたつ手をたたこう



いぬ！

ねこ！

ひよこ！



☆「2文字のことば」の歌詞を「3文字のことば」に替えたり、「○からはじまることば」に替えたりと、さらにアレンジをして取り組んでみましょう。

動画をCheck!



✓こちらのQRコードからあそびの様子を動画で見ることができます！

<https://youtu.be/osQ0hOktroc>
このあそびの動画(1分20秒)



《ちょこっとワンポイント》

★短いことば（2～3文字）から始めましょう。

★ヒントは積極的に出しましょう。

★身のまわりにあるもの
の名前を取り入れましょう。

★はじめは
ゆっくりなテンポで
取り組みましょう。

★慣れてきたら
お題のことばを言う役割を
子どもに任せてみるのも
いいですね。

《こんな子いませんか？》

A 音の数がわからない



○ことばの音に動きをつけて
取り組んでみましょう。

○2文字のことばを2人1組になって
それぞれ一音ずつ声を出して言うなどして、
子どもが体験しながら一対一の対応が分かる
工夫をしてみましょう。



B はじめの音がわからない

※「〇からはじまることばver.」



○動きをつけてことばを確認した後に、
動作と合わせて確認してみましょう。

C スピードについていけない



なんの音から始まるか
みんなで確認してみよう！

○手あそびに取り組む前に…
手あそびの中で出すことばを絵本やイラストで「何文字のことばか」や「何からはじまることばか」を確認してから実施してみましょう。



おとわけポン！

～「あたま・かた・ひざ・ポン」で～

音韻分解
音韻抽出

聴覚記憶

視空間
認知

基本語彙

- 《ねらい》
- ◆単語を構成する音を分解できる。
 - ◆単語を構成する音が、どのような順序で並んでいるか分かる。
 - ◆お題のことばを聞いて覚え、繰り返すことができる。

《準備物》 【必ず用意するもの】【あると便利なもの】 なし

《あそび方》

「ロンドンばし」(作詞 不詳/作曲 イギリス民謡)を
替え歌アレンジした手あそびです。



あたま



かた



ひざ



ポン！

ひざ ポン！ ひざ ポン！

あたま かた ひざ ポン！ やってみよう！



※ひとつのお題を2回繰り返したり、
いくつかのお題を続けて出したりします。

☆続けてクイズを出題！

「では、クイズです」

「『とけい』の“さいごの音”は何でしょう？」



動画をCheck!



↓こちらのQRコードからあそびの様子を動画で見ることができます！

<https://youtu.be/aEWNoffs6iw>

このあそびの動画(2分30秒)



《ちょこっとワンポイント》

★はじめは
ゆっくりなテンポで
取り組みましょう。

★お題のことばの文字数で
難易度の調整ができます。

★ヒントは積極的に
出しましょう。

★慣れてきたら…
お題のことばを言う役割を子どもに
らせてみるのもいいですね。

《こんな子いませんか？》

A スピードについていけない

○お題のことばの文字数を統一し
リズム・動きを一定にして
取り組みましょう。



B 動きとことばが一致しない



○動きだけを真似して周りと合わせたり、
保育者や友だちの動きを見てことばだけを
言ったりする等、部分的に参加してみるの
もよいでしょう。

C どの音を尋ねられてるか分からない

※クイズの場面



ひざを叩いた時には
なんて言ったかな？

○動きと照らし合わせて
思い出すように促してみましょう。



頭の時に
なんて言うか
覚えておいてね



音韻操作

聴覚記憶

視空間
認知

基本語彙

こんなことができますか？

- 《ねらい》
- ◆リーダーの動きを見て、真似ることができる。
 - ◆左右や上下などの位置が分かる。
 - ◆動きの方向が分かる。

- 《準備物》
- 【必ず用意するもの】 なし
- 【あると便利なもの】 ホワイトボード マーカー 等

《あそび方》

こんなことができますか(作詞作曲不詳)をアレンジしたあそびです。

☆リーダー（保育者）



こんなこと



こんなこと



できますか？

○子ども ※リーダーと同じ動きをする



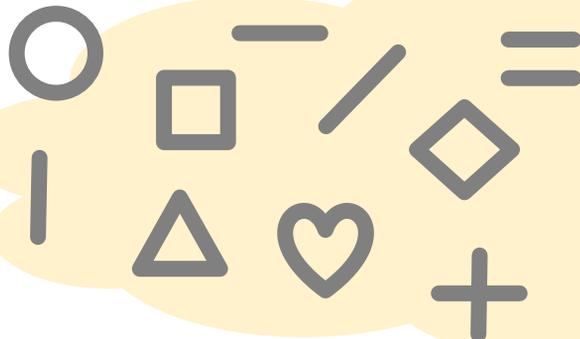
こんなこと



こんなこと



できますよ！



描く形により、難易度が異なります。

これらの形や、他にも波線やギザギザ線、星など様々な要素を含んだ動きに挑戦してみましょう！



動画をCheck!



✓こちらのQRコードからあそびの様子を動画で見ることができます！

<https://youtu.be/6xpJ54IkEt0>
このあそびの動画(2分20秒)



《ちょこっとワンポイント》

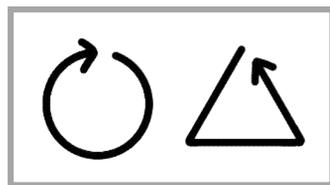
★手で描くだけでなく、肘やお尻、頭を動かして描くなど、全身を使って取り組んでみましょう。

★正確に動くことだけでなく、よく見て真似することが楽しいと感じられるといいですね。

★はじめは真似しやすい大きな動き（しゃがお等）を全身で表現するところから始めてみましょう！

《こんな子いませんか？》

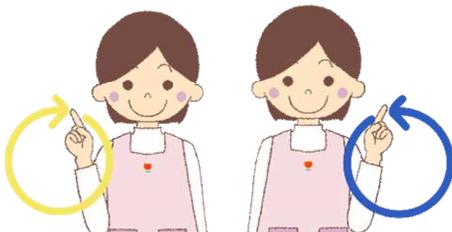
A どんな動きをしたらよいか分からない



どんな動きをするのか事前に視覚的に示してみましょう。

B 動きが覚えられない

○一度にたくさんの動きを取り入れずに同じ動きを2回繰り返すことから始めてみましょう。



○「ま〜る!」「さ〜んかく!」のように動きを言語化して唱えながら取り組んでみましょう。



はんたいことば 探検隊

音韻操作

聴覚記憶

視空間
認知

基本語彙

- 《ねらい》
- ◆様子を表すことば(形容詞等)の対義語が分かる。
 - ◆動きを表すことば(動詞)の対義語が分かる。
 - ◆リズムによって単語を唱える。

- 《準備物》
- 【必ず用意するもの】 なし
 - 【あると便利なもの】 はんたいことばリスト 資料

《あそび方》



はんたいことばの探検隊！



リズムにあわせて言ってみよう！



「大きい」と言ったら



「小さい」と言ったら



はんたいことばの探検隊！

はんたいことばリスト (一部)

①形容詞(形容動詞)

②空間を表す言葉

基本のことば	反対のことば	基本のことば	反対のことば
大きい	小さい	上	下
長い	短い	前	後ろ
高い	低い	右	左
重い	軽い	表	裏
強い	弱い	広い	狭い

* 「基本のことば」と「反対のことば」は入れ替えてもあそべます。

動画をCheck!



✓こちらのQRコードからあそびの様子を動画で見ることができます！

<https://youtu.be/KKyfmaTc2T4>

このあそびの動画(1分40秒)



《ちょこっとワンポイント》

★はじめは
ゆっくりなテンポで
取り組みましょう。

★生活の中で
なじみのある単語から
はじめてみましょう。

★ヒントは積極的に
出しましょう。

《こんな子いませんか？》

A はんたいことばがわからない

“大きい”の
反対のことばは何だと思う？



“ちいさい”
だよ！



○ことばの意味にあったジェスチャーをつけて取り組み、視覚的にもヒントを示しましょう。

○手あそびをはじめる前に、
出てくることばの組み合わせを
確認してから取り組みましょう。



“長い”と
言ったら？



みじかい

B テンポよく発言ができない

○テンポをゆっくりにして取り組みましょう。

○ことばにこだわらず、ジェスチャーだけ真似るところからはじめてみましょう。





わたしは誰でしょう？

音韻操作

聴覚記憶

視空間
認知

基本語彙

- 《ねらい》
- ◆複数のヒントを覚えておくことができる。
 - ◆複数のヒントを関連付けて、イメージする。
 - ◆身の回りにあるものの名前を知っている。

- 《準備物》
- 【必ず用意するもの】 なし
 - 【あると便利なもの】 クイズの答えとなる玩具・日用品等
答えとなるものを隠す布や衝立など

《あそび方》

「今から、“わたしは誰でしょう”のクイズをするよ。
答えが分かって、も、「せーの」と言うまで内緒にしているね。」



動画をCheck!



✓こちらのQRコードからあそびの様子を動画で見ることができます！

<https://youtu.be/gxa9IZ2weIM>
このあそびの動画(2分15秒)



《ちょこっとワンポイント》

★答えが分かるまでに個人差があります。考える時間を設けましょう。

★子どもにとって親しみのあるものや、身近なものを題材として取り入れましょう。

★ヒントは積極的に出しましょう。

《こんな子いませんか？》

A 3つのヒントを覚えておくのがむずかしい

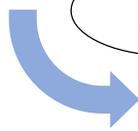
わたしは、“動物”だよ



“動物”だね、よし！



“動物”だって！



なんて言ってた？



○チーム制にして、一人ひとつのヒントを覚えてから、各チームで答えを話し合う方法で取り組んでみましょう。

わたしには“模様がある”って言ってた！

B 3つのヒントから答えが導き出せない

○ひとつのヒントから、どのような答えになりそうか、みんなで考えを出し合ってみましょう。

わたしは、“動物”です動物には何がいるかな？



／なんだろう...？／ きりんだ！／ ライオン！／





変身！ことばさがし

音韻削除

聴覚記憶

視空間
認知

基本語彙

- 《ねらい》
- ◆ある単語が、別の単語に変化することを理解する。
 - ◆語頭音と語尾音が分かる。
 - ◆語頭音と語尾音をつなげたことばの意味が分かる。

- 《準備物》
- 【必ず用意するもの】 なし
 - 【あると便利なもの】 変身ことば絵カード 資料

《あそび方》



「変身！ことばさがしをやるよ。
今日変身するのは何かな？よく聞いていてね。」



変身！ 変身！ 変身ことば



はじめるよ



『あ』

『さ』

『り』



『あ』

『さ』

『り』

※2回繰り返す



頭とひざで変身だ！ それ



『あ』



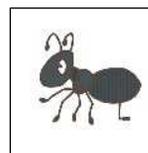
『り』



『あ』



『り』



「“あさり”が“あり”に
変身したね。」



動画をCheck!



✓こちらのQRコードからあそびの様子を動画で見ることができます！

<https://youtu.be/L92Fgx-0zjs>

このあそびの動画(2分14秒)



《ちょこっとワンポイント》

★変身する前に、
どんなことばに変身するかを
子どもが考える時間を設けま
しょう。

★4文字のことばは、
頭・肩・ひざ・手拍子
で表します。

★ヒントは積極的に
出しましょう。

《こんな子いませんか？》

A どの音を取ればよいかわからない

○動きをつけてことばを確認した後に、
動作と合わせて確認してみましょう。



B スピードについていけない

○はじめは3文字のことばから、
ゆっくりなテンポで
取り組みましょう。





トントントン、 誰ですか？

音韻操作

聴覚記憶

視空間
認知

基本語彙

- 《ねらい》
- ◆意味のあることばを復唱できる。
 - ◆意味のないことばを復唱できる。
 - ◆復唱したことばから、隠れているものを推測できる。

《準備物》 【必ず用意するもの】 題材として隠す玩具・日用品等
題材を隠す布や衝立など

《あそび方》



「この中に、誰かが隠れているよ
誰かな？」

みんなで一緒に聞いてみよう！



呪文を言ったら出てくるよ！

トントントン、誰ですか！



呪文を教えてくださいな

呪文を言うよ、おぼえてね

『まるく まるく まるく』

～繰り返し唱えたり、
答えを予想したりする～



さあ、答え合わせだよ
みんなで呪文を言ってみよう！

『まるく まるく まるく』



「中に隠れていたのは……？」



「くるま！」



動画をCheck!



✓こちらのQRコードからあそびの様子を動画で見ることができます！

<https://youtu.be/7rM8yRaRoHA>

このあそびの動画(3分20秒)



《ちょこっとワンポイント》

★身のまわりにある身近なものをお題に取り入れましょう。

★ヒントは積極的に出しましょう。

★呪文に使うことばは、短いことばからはじめましょう。

《呪文の例》

① 〈有意味語〉

隠したものを表すことばを2つまたは3つ言う
ボール→「まるい・ころがる・あそぶ」等

② 〈無意味語〉

隠したものの逆さことばを3回言う
くるま→「まるく・まるく・まるく」

《こんな子いませんか？》

A 呪文が覚えられない

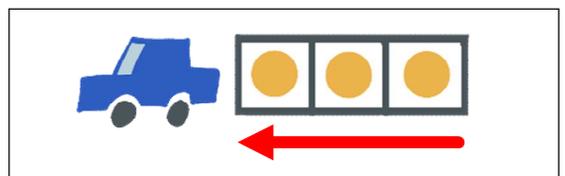
○聞き慣れたことばである、有意味語の呪文から始めましょう。



B 無意味語から答えの予想が付かない

○呪文を2文字のことばにしてみましょう。

○「おとわけポン！」(P36) で使った動きを付けながら、逆さことばにしてみましょう。



○イラストや磁石等で示しながら、どうやってその答えになったのかみんなで確認してみるのもよいですね。



どちらの絵かな？

音韻操作

聴覚記憶

視空間
認知

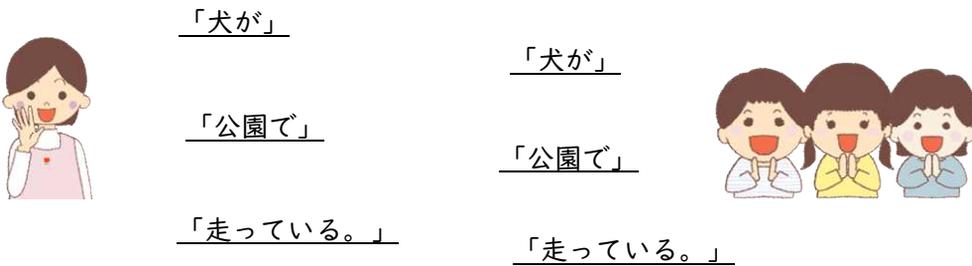
基本語彙

- 《ねらい》 ◆保育者(リーダー)が言ったことばを復唱できる。
◆復唱したことばの意味が分かる。

- 《準備物》 【必ず用意するもの】 問題文リスト 資料
イラストカード 資料

《あそび方》

「今から、先生の言うことばをよく聞いて、真似してください。
言い終わったら2つの絵を見せるので、どちらが正しいか当ててみましょう。」



「では、どっちでしょう。」



保育者は、正解と不正解の2つのイラストを見せる。



*子どもたちは、正解だと思う方に
動くようにしても面白いですね。

動画をCheck!



✓こちらのQRコードからあそびの様子を動画で見ることができます！

<https://youtu.be/vkE3QIbeu7I>

このあそびの動画(1分34秒)



《ちょこっとワンポイント》

★ヒントは積極的に出しましょう。

★得意な子がいれば出題者になって取り組むのもよいでしょう。

《こんな子いませんか？》

A なかなか単語が覚えられない

○保育者が言って、子どもが真似るのをもう一度繰り返してみましょう。



もう一回
言ってみようか！

犬が

犬が



はじめるよ

よく
聞いていてね

うん！



○はじめる前に、注意をひく声掛けをしてから始めてみましょう。

B キーワードが聞き分けられない

○大事な箇所だけ、ゆっくりと大きな声で言ったり、間をもたせたりするなどして、アクセントをつけた伝え方をしてみましょう。



犬が

公園で

走っている

(2)個別で取り組むあそびプログラム

個別で取り組むということ

子どもの中には、友だちと一緒に取り組みたい子もいれば、自分のペースで落ち着いて取り組みたい子もいます。

Springプログラムは、「クラスで取り組まなければならない」や「個別で取り組まなければならない」といった実施の制約はありません。



個別で取り組むあそびって、
「誰が」「いつ」「どのように」取り組むの？

モデル園では、インクルーシブ支援員が週に一度、子どもの在籍する園を訪問し、個別にあそびプログラム1つを5～10分程度で2～3つ実施しました。この取り組み方以外にも、子どものペースで好きな時間に取り組んだり、担任のほか支援員や級外の先生と一緒に取り組んだり、その方法は柔軟に選択することができます。

落ち着いた部屋でできれば、
より効果的に！

アセスメントから、
その子に育てたい力を見極めて！

「できた！」「楽しい！」につながる時間を

クラスでの取組と同様、子どもが楽しめることを最優先にあそび方を工夫します。ヒントをたくさん出しながら、取り組みましょう。

その子の好きなキャラクターや興味を示すものをモチーフにした教材を用意できると、子どものやる気がより一層アップします。子どもが「できた！」「楽しい！」「もっとやりたい」と思えるような時間にしましょう。

うまくいかない時には、あそびプログラムの「こんな子いませんか？」を参考に、モールステップを意識して手立てを考えてみましょう。

たくさんの
ヒント

好きな
キャラクター

楽しい
雰囲気





音韻すごろく

音韻分解

聴覚記憶

視空間
認知

基本語彙

- 《ねらい》 ◆単語がいくつの音で成り立っているか分かる。
◆指定された音の数で構成される単語を答えることができる。

- 《準備物》 【必ず用意するもの】 すごろくシート
コマ、さいころ

資料

資料

《あそび方》

- ①さいころを振る。

※さいころは、
イラストの描かれたものを使用します。



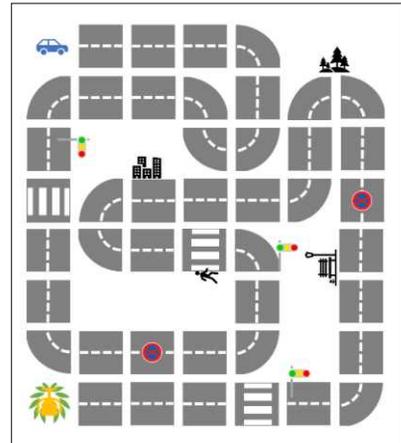
- ②さいころの出た目に描かれたイラストの
ことばの数だけ、コマを進める。

☆この時、出た目が“とまと”であれば、
「と / ま / と」と声に出しながら、
コマを全部で3マス前に進める。



- ③次の人に交代し、交互に進め
ゴールを目指す。

※すごろくシートの例



ステップアップ♪

- ①一般的なさいころを使用し、
さいころを振る。
- ②出た目の数で構成されることば
を考える。
(4が出たら、“くわがた”など)
- ③そのことばを唱えながら、
コマを進める。
- ④次の人に交代し、交互に進め
ゴールを目指す。



動画をCheck!



↓こちらのQRコードからあそびの様子を動画で見ることができます！

<https://youtu.be/xotgyneel7k>
このあそびの動画(1分22秒)



《ちょこっとワンポイント》

★子どもの興味・関心のあるものや好きなキャラクターなどを題材にした盤面や、コマを用意してみましょう。

★ヒントは積極的に出しましょう。

★短いことば（2～3文字）からはじめましょう。

★撥音（ん）や促音（っ）、拗音（しゃ、しゅ、しょなど）を含まない単語からはじめましょう。

★慣れてきたら文字数を増やしたり、さいころではなくしりとりをしながら進めたりしても、楽しく取り組むことができます。

《こんな子いませんか？》

A 音と動きが一致しない

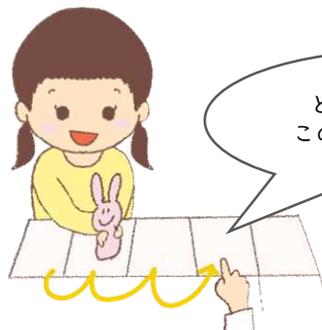
○子どもの動きに合わせて保育者も共に声を出し、モデルを示しましょう。

間違っても指摘はせずに、正しい動きと音の組み合わせを示すようにします。



B どこまで進んだらよいのかわからない

○どこまで進むのかを先に指さして示して、視覚的に伝えてみましょう。



○それでもむずかしいときには、慣れるまで子どもの手を取り、一緒にコマを動かしてみましょう。



そろえて カードポスト

音韻分解

聴覚記憶

視空間
認知

基本語彙

- 《ねらい》
- ◆様々なことばに触れ、興味をもったり親しみを感じたりする
 - ◆単語がいくつの音で成り立っているか分かる。

- 《準備物》
- 【必ず用意するもの】ポストボックス
イラストカード 資料
 - 【あると便利なもの】補助シート 資料

- 《あそび方》
- カードに描かれたイラストの文字数と同じ枚数のカードを集めることを目指すカードゲームです。



①はじめに、右図のように、ポストボックスと山札を真ん中に配置し、1人3枚ずつ手札を見えるように置く。

②山札から1枚カードをひく。

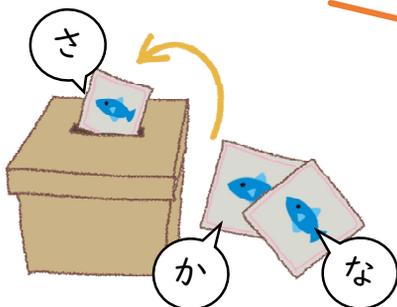
②相手からもらえば揃うときには「〇〇のカードください」と声をかけ、相手の手札から1枚もらうことができる。

③手持ちのカードと合わせ、カードに描かれたイラストの文字数だけカードの枚数が揃ったら、ポストボックスにカードを1枚ずつ声に出しながら入れる。

③手持ちのカードと合わせ、揃わない時には、引いたカードを自分の手札に加える。

④次の人に交代する。

②～④を山札のカードとそれぞれの手札がなくなるまでくり返す。



動画をCheck!



▽こちらのQRコードからあそびの様子を動画で見ることができます！

<https://youtu.be/VezcNJQ2jLA>
このあそびの動画(2分16秒)



《ちょこっとワンポイント》

★短いことば（2～3文字）から始めましょう。

★ヒントは積極的に出しましょう。

★生活の中でよく使うことばや、知っていてほしいことばをカードにすると、楽しみながら身に付けることができます。

《こんな子いませんか？》

A 何枚揃えるのかわからない

★カードについて

- ・カードは、それぞれのイラストの文字数に対応した枚数を用意します。
- ・2文字のカードには青、3文字のカードには赤、4文字のカードには緑の枠をつけておきます。

▶ねこ

(2文字)

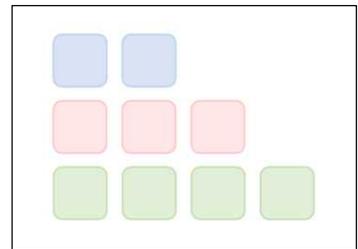


▶くるま

(3文字)



※補助シート



←この手がかりでも難しい場合には、補助シートを用いて、枠と同じ色の四角の上にカードを並べ揃っているかどうかを分かりやすくしましょう。

B 入れる動作と音が一致しない

- 子どもがボックスにカードを入れるタイミングに合わせて保育者も共に声を出すようにしましょう。





音韻操作

聴覚記憶

視空間
認知

基本語彙

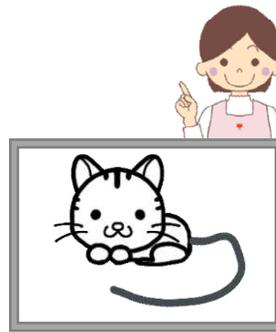
ねこのしっぽ

- 《ねらい》 ◆角や曲線などを意識して形を捉えたり、描いたりすることができる。
◆形を見比べ、その違いに気付くことができる。

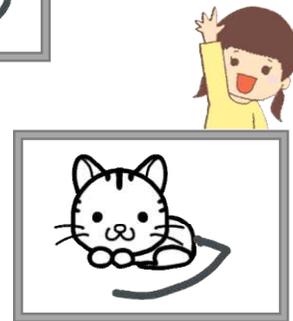
- 《準備物》 【必ず用意するもの】 ホワイトボード ボードマーカー
動物イラストマグネット  2セット

《あそび方》

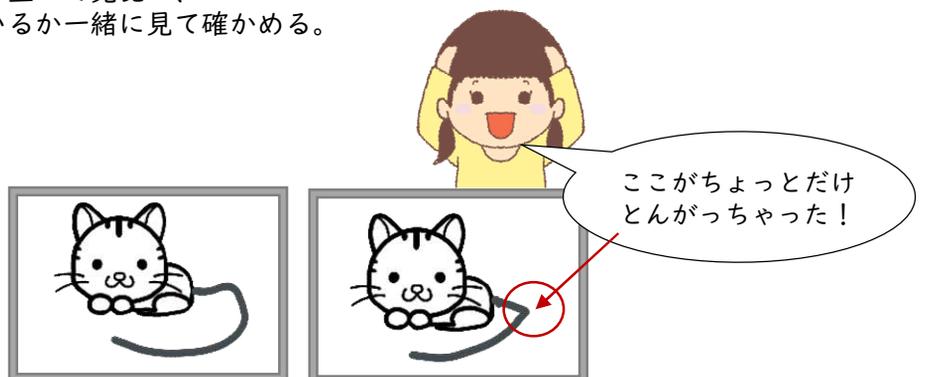
- ①保育者が、ホワイトボードに
ねこのしっぽとなる線を描く。



- ②子どもが、保育者の描いたしっぽを真似、
同じ形になるようにしっぽを描き加える。



- ③ホワイトボードを並べて見比べ、
同じ形になっているか一緒に見て確かめる。



動画をCheck!



✓こちらのQRコードからあそびの様子を動画で見ることができます！

<https://youtu.be/pnyHoqM Ovk>
このあそびの動画(3分36秒)



《ちょこっとワンポイント》

★はじめはシンプルな線から始めましょう。

★見比べるときには、どこがよかったのかを具体的に伝えましょう。

★慣れてきたら、役割を交代して取り組んでみましょう。

このとき、あえて異なる部分があるように描き、どこが違うのか子どもに尋ねてみるのもよいでしょう。

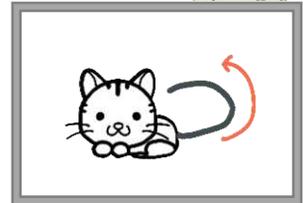
《こんな子いませんか？》

A 形がうまく取れない

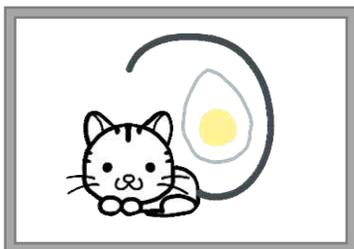
○はじめは細部にこだわらず、お互いの形の似ている部分を探して声をかけてみましょう。



・上に向かって
・丸く
しっぽが描けたね！



○形の特徴を具体的にことばにして声をかけてみましょう。



ここに、たまごが入るくらい大きく、丸くしっぽを描いてみよう！





音韻操作

聴覚記憶

視空間
認知

基本語彙

音と動きのかるた

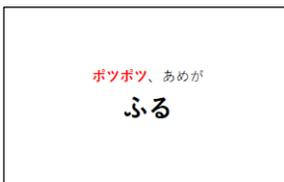
- 《ねらい》 ◆動きに関することばの語彙が増える。
◆様子を表すことばや音の表現と組み合わせて覚えようとする

《準備物》 【必ず用意するもの】 動きのことばを題材としたかるた

(絵札 ・ 読み札)

資料

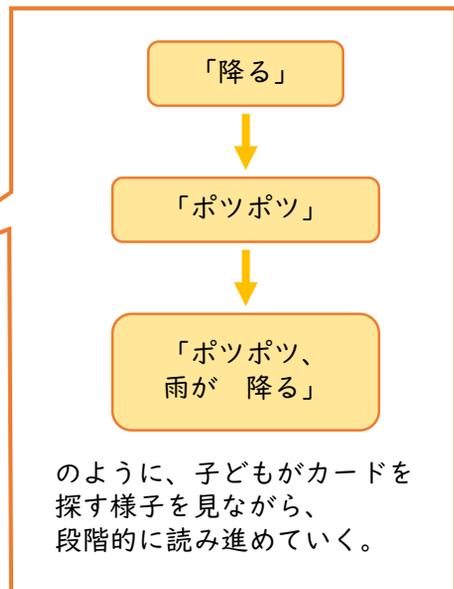
《あそび方》



①絵札を机に並べたら、
保育者が読み札を読む。



②子どもは、読み上げられた単語や
キーワード、文章などを手がかりに、
それに合ったイラストが描かれたカードを取る。



動画をCheck!



▽こちらのQRコードから
あそびの様子を動画で見ることができます！

<https://youtu.be/Pj0e2E6eALg>
このあそびの動画(2分09秒)



《ちょこっとワンポイント》

★読み札を読むときには
ゆっくり・はっきり
読むことを心がけましょう。

★慣れてきたら、
少人数の集団でも
取り組むことができます。

★読み手も取る側に
加わって参加するのも
よいでしょう。

《こんな子いませんか？》

A 動きのことばとイラストが一致しない

○イラストの描かれたカード
を一緒に見ながら、子ども
から出てくることばに動き
のことばを加えた声かけを
交えて話してみましょう。



※イラストではイメージしにくい場合には、
あそびに限らず、日常の中で動きのこ
とばを意識して声かけの中に取り入れる
ことをおすすめします。



4 小学校入学後に できる支援

Springプログラムは
小学校入学以降においても役立つことが
たくさんあります。

(1)読み書き学習になじむために

小学校に入学すると、子どもたちはいろいろな場面で新しいことばに出会い、文字を介した学習の機会が急速に増えていきます。

読み書き学習に自然となじんでいくためには、子どもの頑張りたい気持ちを支えると共に、大人の細やかな配慮が必要です。

きめ細やかな支援の**手がかり**

音韻分解

聴覚記憶

視空間
認知

基本語彙

Springプログラムで育まれる4つの力は、小学校入学以降の学習における支援の手がかりになります。どこに弱さがあるか分かり、それに適した支援をすると、子どもの努力に見合った学習活動が展開できる、望ましい学習サイクルを築くことができます。

- よりよい学習サイクルのためには、子どもが「簡単！」と感ぜられる支援が必要です。
- “一人でできた！”だけでなく、“手がかりがあるとわかる！”という経験を重ねましょう。



「話しことば」から「書きことば」へ

音声でやり取りすることばが「話しことば」であるのに対して、文字で表すことばは「書きことば」です。小学校では、書きことばを多く使い学習が展開されます。文字で表された情報を知りたい、伝えたい、残したいと子ども自身が感ぜられることが大切です。



の気持ちを大切に…

《第2層の子は…》



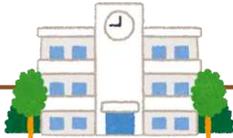
- ◆ことばを構成する「音」の操作に時間がかかるかもしれません。
- ◆たとえば、しりとりでは、次に何の音から始まることばを探すのか、という判断に時間がかかることがあります。



クラス全体への指示や説明に加えて、個別の声掛けや補足説明があると活動しやすくなります。例えば…



支援の提案



授業では

【音読場面】

助詞や文末を取り違えるなど、正確に読むことがむずかしい時には…

- ☆ 友達や先生の音読を聞いて、内容を理解してから読むとスムーズです。

【授業の導入・朝の会など】

- ☆ 音韻意識を高める「しりとりあそび」や「ことばあつめあそび」などの活動を行うとよいです。文字と音との対応関係が分かり、読む力を高めま



家庭では

【音読の宿題】

- ☆ 文中によく出てくる単語を丸で囲んでから読むとスムーズです。
- ☆ 読む箇所を指でたどりながら読むことで、読み誤りを減らすことができます。



★ おすすめの活動

クラス① 「ことばあつめあそび」

クラス⑥ 「変身！ことばさがし」 など

《第3層の子は…》



- ◆情報の処理に時間がかかることがあります。
- ◆クラスのペースに合わせて進めようとする、混乱することがあるかもしれません。



クラス全体への指示や説明だけでなく、個別に分かりやすいことばで伝え直したり、手がかりを与えたりするなど、手厚い働きかけがあることで活動しやすくなります。例えば…



支援の提案

授業では

- 「あ」という文字には「ア」という音が当てはまるというルールを学ぶことに時間がかかるかもしれません。
- ☆ 興味のあるイラストを活用しながら、「あひるの“あ”」というように**文字に視覚的なイメージを伴わせて学ぶ機会を設けるとよいでしょう。**
 - ☆ 「ことばあつめあそび」などの活動を通じて、**ことばを構成する音を分解したり、入れ替えたりする力を育てることで、学習の基礎が培われます。**

家庭では

【単語をまとまりとして捉える】

- ☆ まずは2文字または、3文字程度の単語を見つけるゲームなどに取り組むとよいでしょう。
- ☆ 単語は、**イラストとセットで学習すると効果的です。**



★ おすすめの活動

クラス①「ことばあつめあそび」 など

大人と一緒に、うまく読むための方略を考えよう！

②聴覚記憶

《第2層の子は…》



- ◆ことばの意味は分かっていても、一度にたくさんの情報を記憶することがやや苦手なので、聞き漏らしがあるかもしれません。



指示や説明の際、キーワードを用いて強調したり、身振りや実物を活用することで活動しやすくなります。
忘れないことを強調するだけでなく、思い出す手がかりがあるとスムーズです。例えば…



授業では

【指示や説明場面】

- ☆ 短く、繰り返し伝えるとよいでしょう。

【情報を伝えるとき】

- ☆ 事前に名前を呼んだり、「大事なことを3つお話するよ。」のように、**注意力を高める働きかけ**をしたりすることも効果的です。



家庭では

- ☆ 1日5分程度、ことばあそびやスリーヒントクイズなどに取り組むとよいでしょう。記憶したり、頭の中で考えたりする力が高まっていきます。



★ おすすめの活動

クラス⑤ わたしは誰でしょう？

クラス⑦ トントントン、誰ですか？ など

《第3層の子は…》



- ◆ ことばの意味は分かっていても、一度にたくさんの情報を記憶することに苦手さがあり、聞き漏らしを起こしやすいです。



指示や説明の際、一度に複数の情報を伝えると混乱しやすいので、個別に1つまたは2つの情報を伝えながら段階的に行動できるように工夫をするとよいでしょう。また、身振りや実物、体験を伴って聞くことで記憶しやすくなります。例えば…

支援の提案

授業では

- ☆ 指示や説明の場面では、個別に短く区切って伝え、段階的に活動に取り組める工夫をするとよいでしょう。
- ☆ 新しいことばや文字を覚えるのに時間がかかる場合には、視覚的なヒントや体験を伴うと記憶を助けます。
- ☆ 知っていることばを増やしておく、今後の学習の助けになります。

家庭では

- ☆ 1日5分程度、ことばあそびやスリーヒントクイズなどに取り組むとよいでしょう。記憶したり、頭の中で考えたりする力が高まっていきます。
- ☆ おやみに覚えさせるのではなく、どのような覚え方をしたらうまくいくかを一緒に考えましょう。例えば、「ヒントを頼りに思い出す」という行為は記憶を助けますので、積極的にヒントを示すとよいです。

★ おすすめの活動

クラス⑤ わたしは誰でしょう？
クラス⑦ どちらの絵かな？

など

「しっかり覚えなさい」という声掛けではなく、楽しみながら記憶力を育てよう！

③視空間認知

《第2層の子は…》



- ◆ 図や記号の形を把握するのに、時間がかかるかもしれません。
- ◆ お手本と見比べるときに、図の向きや全体像など、複数の情報を捉えることに苦手さがありそうです。



クラス全体に見本を示す際、どこに着目するとよいかをことばで具体的に示すことで活動しやすくなります！例えば…



支援の提案



授業では

- ☆ 形の特徴をことばに置き換える等の補足説明があるとスムーズです。

【音読場面】

- ☆ 一行ごとに定規を当てたり、穴を空けた用紙を当てたりして読まない文字を隠すと読みやすくなります。
- ☆ 単語のまとまりを探す力が弱い可能性があります。読む前に文中によく出てくる単語を丸で囲むなどして注目できるように工夫してみましょう。



家庭では

- ☆ 書けない文字は、すらすら読むことが難しい文字かもしれません。
- ☆ 文字を大きく示すことで、読んだり書き写したりしやすくなるかもしれません。
- ☆ 形や書き方をことばに置き換えて伝える方法も有効です。
- ☆ 日常生活のさまざまな場面で、右や左など、位置を表すことばを意識的に用いるとよいです。



★ おすすめの活動

クラス③ 「こんなことができますか」 など

《第3層の子は…》



- ◆ 図や記号の形を把握するのに、時間がかかりそうです。
- ◆ お手本と見比べるときに、図の向きや全体像など、複数の情報を捉えることに苦手さがありそうです。



クラス全体に見本を示すだけでなく、大人が目の前に座って個別に見本を示すと活動しやすくなります。その際、見て分かりそうなことも、改めてことばにして伝えるとよいでしょう。例えば…

支援の提案

授業では

「あ」と「お」のように、形の似た文字を読み分けることが難しいかもしれません。

- ☆ 形をことばに置き換えて学ぶ機会を増やすとよいでしょう。
- ☆ 教師が見本を示す際、マス目の4つの部屋を4色に色分けし（カラーマスノート）、位置情報と色とを対にして示すと理解しやすくなります。
- ☆ 本人が使用するノートもカラーマスにし、「赤の部屋から始まる字だよ。」のように学習すると効果的です。

家庭では

書けない文字は読めないので、まずは目的をもって読みたくなるような機会を設けましょう。

【音読場面】

- ☆ 文章を文節で分けたり、ことばのまとまりで囲んだりして、単語を見やすくするとよいでしょう。読む部分に注目できるように、下敷き等で読まない部分を隠すことも効果的です。

【形をイメージする力を高める】

- ☆ 子どもの背中に形（○×など単純なもの）を描いて当てるあそびは効果的です。

★ おすすめの活動

クラス③ 「こんなことができますか」 など

見る力を、ことばの力で補う方法を身につけよう！

④基本語彙

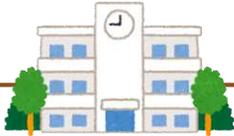
《第2層の子は…》



- ◆ 普段よく聞いていることばでも、意味を取り違えていることばがいくつかあるかもしれません。



クラス全体への指示や説明に加えて、個別の注意喚起や補足説明があると活動しやすくなります。例えば…



授業では

入学当初、教科名等初めて聞くことばがあり、何をどうすればよいか分からない場合があります。

- ☆ やさしい表現で言い換えたり、教師や友達と一緒に行動したりするとよいでしょう。
- ☆ 理解しづらいことばがある場合には、視覚的な手がかり（実物・写真・絵等）を提示し、ことばと結びつけることで理解しやすくなります。



家庭では

- ☆ ことばあそびやスリーヒントクイズ、文作りゲーム等を通して、楽しみながら語彙を増やしていくとよいでしょう。
- ☆ 生活の中で、意味を取り違えていることばがあるかもしれません。ゆっくり、はっきり話しかけることをおすすめします。



★ おすすめの活動

- クラス④ はんたいことば探検隊
- クラス⑥ 変身！ことばさがし
- クラス⑤ わたしは誰でしょう？ など

《第3層の子は…》



- ◆ 普段よく聞いていることばでも、意味を取り違えていたり、よく知らなかったりするものがありそうです。



クラス全体への指示や説明だけでなく、個別に分かりやすいことばで伝え直したり、手がかりを与えたりするなど、手厚い働きかけによって、活動しやすくなります。
ことばだけでは意味の取り違えに気付きにくいので、具体物などを用いて伝えると正しく伝わります。例えば…

支援の提案

授業では

入学当初、教科名等初めて聞くことばがたくさんあり、何をどうすればよいか分からない場合があります。

- ☆ 全体への指示の後、**理解の程度を個別に確認**するとよいです。
- ☆ **視覚的な手がかり（実物・写真・絵等）**は、理解を助けます。

家庭では

生活の中で、意味や音を取り違えていることばがあるかもしれません。

- ☆ ゆっくり、はっきり話しかけることをおすすめします。
- ☆ 「見れば分かる」ようなことも、ひとつひとつことばで伝えるようにするとよいでしょう。
- ☆ ことばあそび等のゲームをして、楽しみながら語彙を増やしていくとよいでしょう。

★ おすすめの活動

- クラス①ことばあつめあそび
- クラス④ はんたいことば探検隊
- クラス⑤ わたしは誰でしょう？ など

語彙は、
楽しくあそんで育てよう！

第3章

つなぐ

子どもの育ちをつなげよう



1. 子どもを支える チームをつくる

大人がチームとなり、
子どもの成長を支えていく必要があります。

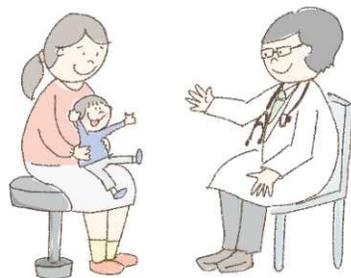
乳幼児期の支援

自治体では、乳幼児に対する健康診査を実施し、身体発育や発達における課題を早期に発見し指導するなど、子どもの健康の保持増進を図っています。その中で、支援が必要な子どもについては、医療や療育など適切な支援につなぎ、子どもの育ちをサポートしていきます。また、園の巡回訪問等、継続的な支援を行っている自治体もあります。

乳幼児健康診査

1歳6か月児健康診査

3歳児健康診査



園での支援の現状と課題

園生活は、子どもが初めて家族以外の人々との生活を経験する場です。健康診査で支援につながらなかった子どもの中には、家庭とは異なる環境や同世代の子どもとの関わりの中で、困り感を抱える子どももいます。

園では、子どもの支援や保護者支援に加え、外部機関との連携などの多くの対応が任されています。そのため、保育者が対応に悩んだり、適切な支援が必要な子どもに支援が届かなかったりといった現状があります。



どの子どもにも幼児期から適切な継続的・積極的支援を

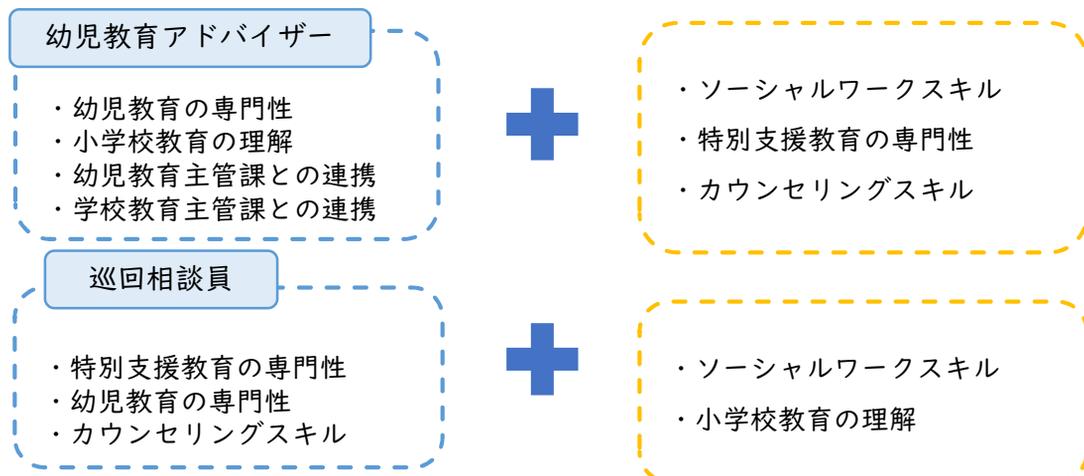
発達の課題の有無にかかわらず、どの子どもにも幼児期から適切な支援を継続的・積極的に行うことは、子どもの育ちを支え子どもの成長を促すことにつながります。子どもの安定・成長には、子どもを取り巻く大人が協力して適切で積極的な支援をすることが大切です。

そこで、「保育ソーシャルワーカー(以下、保育SW)」を活用し、園や適切な支援が届いていない子どもへの継続的・積極的支援を行いました。チームで対応するための園内体制や小学校との連携体制の構築、保護者や保育者支援など、外部人材の専門的視点を園運営に取り入れ、支援体制を強化しました。



～実践より提案～

保育SWは、包括的に子どもの育ちを支える上で有効です。市町に保育SWを配置したり、各自治体の有する幼児教育アドバイザー等の人材をソーシャルワークの視点でスキルアップしたりすることで、子どもや保護者、園を支える保育SWの役割を果たすことができるのではないのでしょうか。



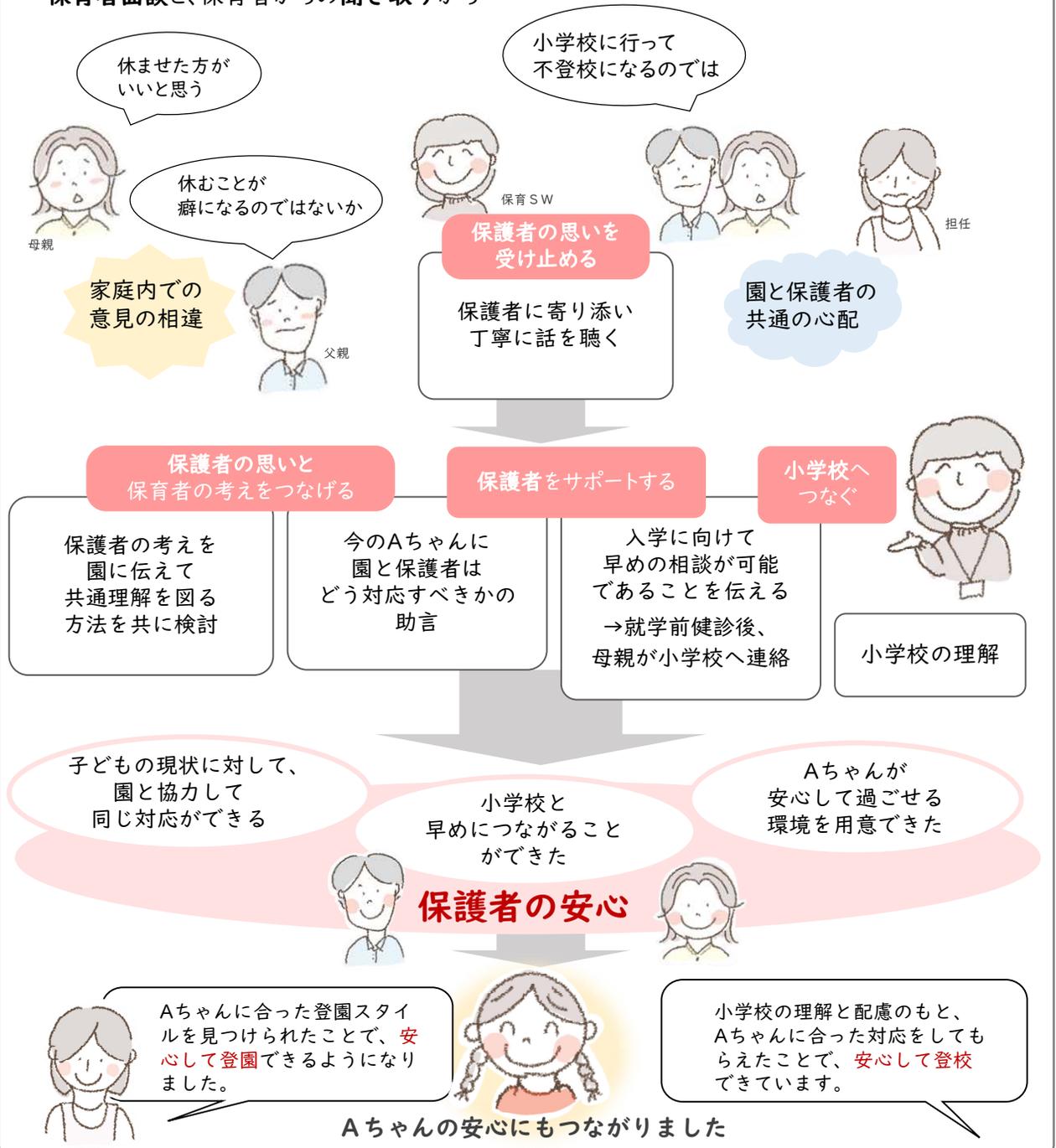
(1) 保護者に寄り添う

-エピソード-

年長にあがった5月、不安そうな表情が多く見られるようになったAちゃん。腹痛・頭痛を訴え、泣いて登園を渋るようになりました。病院を受診しましたが、身体に問題はありません。園生活でも、これといった原因は見当たりません。家で穏やかに過ごしていると症状が治まるため、保護者はどうすればよいか悩んでいました。

Aちゃんの様子について心配した園から保育SWに相談があったことから、保護者支援が始まりました。

保育者面談と、保育者からの聞き取りから…



♥ 保育SWとして大切にしたいこと

保護者面談をする上で大切なのは、保護者の思いに寄り添い、話を丁寧に聴くことです。解決ではなく、子どもが安心して過ごすためにはどうすればよいかを共に考えていきます。

家庭内や家庭と園の間で意見が異なる時には、保育SWが間に入ることで、相互理解を図ります。保護者と園が共に納得し同じ対応をすることで子どもの心の安定を図ることがができます。

保護者の思いを受け止め 課題を整理しよりよい支援を考える



園を定期的に訪問し、継続的に保護者支援を行いました。保護者の話を丁寧に聴いて思いを受け止め、課題を整理したり家庭できそうな支援を共に考えたりしました。

また、訪問時に子どもの様子を参観し、保育SWが見取った子どもの成長を保護者に伝えました。保護者が子どもの成長を確かめることで、子どものよさに目を向けた関わりに変化していきました。

子どもを支えるチームをつくる

外部の専門家として、保護者との面談を通して保護者が園に伝えてほしい情報を園に伝えたり、園が保護者に伝えることが難しいことを伝えたりするなど、保護者と園の仲立ちの役割を果たしました。

また、子どもや保護者の状況、相談に応じて、福祉、保健、医療、行政等の外部機関を紹介し、つながりをつくるようにしました。

モデル園の 園長より



子どもたちの成長に対する気付きを保護者に伝えることはとても難しいです。月齢や成長の違いを含めて考えて、今その子に関わる大人がどのように関わればよいかの伝え方に悩みます。今回保育ソーシャルワーカーに来ていただいて、その悩みの解決の糸口を教えていただいたと感謝しています。多くの子どもの成長事例を見てこられた方のアドバイスほど心強いものではありませんでした。

子どもたちに寄り添って保育をしていると思っていても、まだまだ大人の都合や考えを先行させていたことにも気付かされ、保護者と共に見守る意識を強くもつことができました。

(2) 園を支える

-エピソード-

園で月1回行われているケース会議では、クラス内で保育者が気にかけている子どもについて話し合います。保育者は子どもが困っていることは把握しており、どうにかしたいと思っていますが、その対応については悩んでいました。そこで、保育SWがケース会議に参加することになりました。

◆参加者

- ・ 園長
- ・ 主任保育士
- ・ 指導保育士
- ・ 担任保育士
- ・ 保育SW



◆ケース会議の流れ

保育SWの役割

活用したツール

【個別支援シート】

資料 (P93)

◆個別支援シート

子どもの現状 (困っていること)	子どもの現状 - 保育者が 気づいていること
① 子どもの現状 (困っていること)	
② どんな支援・関わりをした のか	
③ 願う子どもの姿 (こんな風になってほしい)	
④ 今後の活動方針	

—MEMO—

- 参加者が子どもの様子を共有できる
- 保育者の負担にならない分量で書ける
- 会議の流れに合わせた情報の整理ができる
- 一人の子どもに対して継続的な支援ができる

① 子どもの現状
(困っていること)

どのような状況でその行動が出るのか、**子どもの表れの背景**などを確認しながら実態を把握する。

② どんな支援・関わりをしたのか

保育者が行った支援のよいところや**メリット**を挙げながら、共に振り返ることで、保育者の意欲および保育の質の向上へつなげる。

③ 願う子どもの姿
(こんな風になってほしい)

子どもの実態に合わせた目標を保育者と共に検討する。

④ 今後の活動方針

目標に向けた支援の手立てや方法を話し合うとともに、対象となる**子どもの興味や関心**に沿った方法と**実施する期間**などを考える。

取り組んでみて…

保育者が**自信をもって**取り組んでいる。
子どもの情緒の安定・意欲的な活動に表れている。

参加者全員で意見を
出し合い、
適切な対応を
考えている。

子どもの成長に合った
継続した支援に
つながっている。



話合いの主体は保育者です。保育SWは、一方的なアドバイスをするのではなく、情報を聞き取りながら、参加する全員で共に考え、保育者に気づきを促すような関わりをすることが大切です。

また、「困った子は、困っている子」であると捉えれば、子どもの見え方が変わります。子どもの困った行動の背景には必ず何らかの原因があります。「何に困っているのか」「その行動をとってしまう原因は何なのか」「どうすれば子どもの困り感を減らすことができるのか」に目を向けることが、子どもを中心とした保育につながります。

園内に子どもを支えるチームをつくる

保育SWが、保育者から園での子どもの様子を聞き取り、保育を参観した上で、子どもの発達や課題等を整理しました。その上で、支援の仕方や園内支援体制の整備について保育者に助言や情報提供を行いました。

また、子どもの個別ケースに関する園内会議に定期的に参加しました。専門的な視点から助言をしたり、保育者の気づきを促すような働きかけをしたりしながら一緒に子どもの状況や特性に合わせた支援を考えました。

話合いをすることで課題や状況を整理し、園の強みを生かした支援や家庭への働きかけを共に考えることができました。回数を重ねるごとに、保育者からの意見が活発になり、園での特別支援に対する意識が高まっていくのを感じました。

保育者を支える ～先生が笑顔でいるために～

保育SWが園を訪問すると、保育者から日頃の保育に関する悩み等について相談を受けることもありました。直面する課題や悩みを肯定的に受け止め、保育者の想いに寄り添いながら、必要に応じてアドバイスや情報提供を行いました。また、保育者同士のコミュニケーションを促したり、保育者自身のよさや実践している保育のよさについても言葉にして伝えたりしました。



モデル園の 園長より



ケース会議では、保育SWに子どもの成長した姿や保育者とは違った視点で子どもの行動を考察し、関わり方や支援等を丁寧に話してもらうことで、保育者が今後の保育の具体的な見通しをもつことができました。

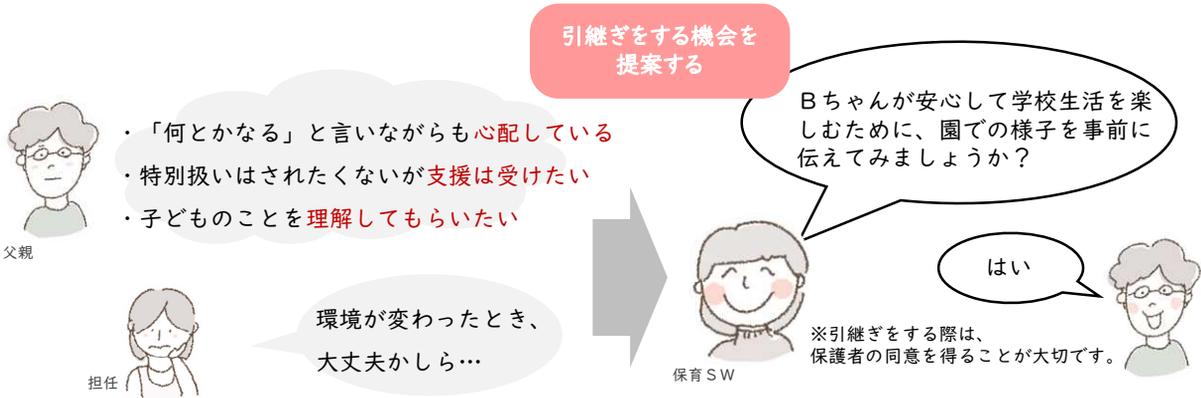
また、保育SWが訪問するたびに保育や保育者の子どもの関わり等を認めてもらうことで、保育者が自信をもちモチベーションアップにもつながりました。子どもとの関わりに悩む保育者に、一筋の光を与えてくれた存在でした。私たちの保育を理解し、受け止めてくださったことに感謝しています。

(3) 園と小学校をつなぐ

-エピソード-

Bちゃんは明るく元気な子。周りのことによく気付き、積極的に行動します。しかし、友だちとの関わりの中でトラブルになってしまうことも多く、そのたびに保育者の丁寧な介入が必要です。

保育者は、小学校入学後、環境が変化した時にうまくやっていけるのか心配しています。園からの相談を受け、Bちゃんの保護者との面談を行い、保護者の想いを聴きました。



小学校へどんなことを伝えるか

- ★ Bちゃんのいいところ
- ★ 好きなこと・得意なこと・興味のあること
- ★ 園生活の中でうまくいった**支援**
- ★ うまくいかなかった**支援**
- ★ 保護者の気持ち

★エピソードと、その背景から…

- ・明るく**元気な性格**
- ・**積極的**に行動できる
- ・周りのことによく**気付く**
- ・友だちが**好き**
- ・人の**役に立ちたい**と思っている

一見、困った行動に見えても、その背景にはBちゃんの思いや考え、よいところがたくさん詰まっているはずですよ！



★保護者や保育者の話から…

- ・**恐竜**が大好き
- ・**体を動かすあそび**に喜んで参加する
- ・友だちとの関わりの中でトラブルになることがある



★これまでの園での関わりから…

- Bちゃんの気持ちを丁寧に**聴く**
- 保育者が間に入って友だちとのやりとりを**仲介**する
- △ 気持ちが高ぶったときに話を聞こうとする
→ 静かな部屋で**クールダウン**した後に話を聴くと◎

園と小学校との引継ぎの場で…



- 専門家の視点で意見を伝える
- 中立な立場で参加し相互理解を促す
- 持続可能な支援を共に検討



♡ 保育SWとして大切にしたいこと

園での環境と小学校での環境の違いを念頭に置きながら引継ぎをすることが大切です。園と小学校で同じ支援をするのではなく、それぞれの状況で実現可能な形にして支援していく必要があります。

園から、その子の抱える背景や特性、よさを伝えていくことで、小学校は子どもを肯定的に捉えることができます。さらに、園での適切な支援を共有し、小学校での支援を検討していくとよいでしょう。

小学校入学後の子どもの笑顔を支える

小学校入学に向けて、子どもが環境の変化に慣れるよう、園と学校の連携をサポートしました。

入学に際し、不安を抱える保護者との面談を通して、保護者の不安を受け止め子どもが安心して小学校へ入学できるよう関係機関をつなぎました。

園と小学校が連携し、丁寧な情報伝達を行いました。子どもが適切な支援を受けるために必要な情報が引き継がれ、小学校入学以降もこれが継続するようにしました。

さらに、子どもの状況や必要な支援について、専門的な視点でアドバイスするなど、入学後の配慮や環境整備について小学校と共に考えました。

事前にBちゃんの情報を得られたことで、具体的な支援を検討し、Bちゃんに合った環境を整え、継続的に支援することができました。

また、保護者が、入学前に保育SWとの関わりがあったことで、小学校入学後も保護者が教員と話すことへの抵抗感が少なく、協力を得やすかったです。



小学校教員

モデル園の 園長より



これまで小学校への引き継ぎは、資料をもとに、一年生の担任と面談したり、電話をしたりするのみでした。保育SWが関わることで、入学後の学校での支援についても尽力いただき、その子に適した学習環境を整えてもらうことができました。

また、保育SWが年長児保護者との面談にも同席することで、入学後の保護者の不安を解消することができました。園では、入学に関するアドバイスはなかなかできないのが現状でしたので、保育SWが小学校との橋渡しをしてくれたことが、子ども、保護者、園への大きな支えとなりました。

2 幼保小が つながるために

一人一人の成長やよさを小学校へ引継ぐことで、園で培ってきた力を、さらに伸ばすことにつながります。

(1) 幼児期の育ちを小学校へつなぐ



子どもたちは、たくさんのことを園で学べます。できることがたくさんあるのに、小学校に入学してくると、何でも「やってもらう側」になってしまいがちです。それでは、幼児期に学んできたことを発揮する機会が少なくなってしまうです。

小学校の教員は、園では何を大切に育もうとしているのか、そのためにどのような援助をしたり環境を整えたりしているのかといったことを理解することが大切です。幼児期に学んできたことを活かしながら学習に取り組めるようにしていきます。

幼児期の教育は、子どもの発達段階に応じて、学びの芽を培っています。「小学校でこの学習をするから園でもやっておかなきゃ。」と、小学校教育の前倒しをすることではなく、小学校での学習にその力をどのように発揮できるようにするのかを考えていくことが重要です。

相互理解がはじめの一歩

園で子どもたちがあそびを通してどのようなことを学んでいるのか、小学校ではどのようにこれまでの学びが活かされているのか、といったことを捉え、保育者と小学校の教員が相互理解を深めていくことが大切です。

幼児期の教育と小学校教育では様々な違いがあり、円滑な接続は容易ではありません。だからこそ、互いの保育・教育を見合い、研修会や意見交換の機会をつくり、子どもの学びを捉えていくことが大切です。

互いの保育・授業を参観し、子どもの姿で語り合うところから始めてみると、子どもの見方の違いに気付き、日々の指導について振り返る機会となります。

学びをつなぐ視点

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

幼児期にふさわしいあそびや生活を積み重ねることにより、育みたい資質・能力が育まれている子どもの具体的な姿として「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」があります。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手がかりに、園から、小学校に子どもの成長や保育者の働きかけの意図を伝えることが、円滑な接続を図る上で大切となります。

(※これは、到達目標でないこと、個別に取り出されて指導されるものではないことに十分留意する必要があります。)

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
(引用：静岡県幼児教育センター)



(2) 一人一人のよさをつなぐツール



園から小学校へどのようなことを伝えればいいの？

「できないこと」ではなく **できるようになったこと**
 「苦手なこと」ではなく **苦手をどうサポートするか**

「できないこと」ではなく「できるようになったこと」、「苦手なこと」より「苦手をどうサポートすると効果的なのか」といった具体的な方法を情報共有することで、子どもが小学校生活をスムーズにスタートする一助になります。

指導の過程を伝える指導要録

園では、一年間の指導の過程や発達の姿を要約してまとめた指導要録を作成し、小学校へ引き継ぎます。

幼児期の学びや子どもの育ちを小学校の教員に伝えるためにも、子ども一人一人のよさや課題が、保育者の指導の方法との関連の中でどのように表れ、育っていったかを記すことが大切です。

一人一人のよさを伝える応援シート

応援シートは、子どもの興味・関心や好きなこと、サポートがあると安心できることなど、保護者や保育者が具体的に記したものです。また、保護者が入学後の生活について心配に感じていることなど保護者の子どもへの願いや思いも入学前に小学校に伝えることができます。

子どもが幼児期にできるようになったことを存分に生かし、継続的・積極的な支援の中で、その子らしさを発揮していくためにも、就学前の情報交換（引継ぎ）は重要です。

資料

- ▶「1年生スタート応援シート」は、静岡県幼児教育センターホームページからダウンロードして使用することができます。
 詳しくは、ダウンロード資料ページ（P93）をご覧ください。

幼稚園幼児指導要録
 幼保連携型認定こども園園児指導要録
 保育所児童保育要録



【おうちのかた あり】

 **1年生スタート応援シート**

ふりがな				生年月日			
お子さんの氏名				令和	年	月	日
入学予定の小学校	小学校	在籍園					
小学校在籍の兄弟関係							

1. お子さんの好きなもの・興味のあることや、よいところを教えてください。

2. 入学に際しての心配なことやお子さんが苦手とすること、気にかけてほしいことがあれば教えてください。なければ記入しなくても構いません。
 また、それに対してのご家庭での対応や(魔法のコトバ)を教えてください。

○心配なこと・苦手とすること ○家庭での対応

3. お子さんと関わる中で大切にしていることや、お子さんへの願いを教えてください。

*上記の情報や園での様子等について、就学予定の小学校と共有することに同意します。
 令和 年 月 日
 保護者署名: _____

第4章

ふかめる

これまでの解説





1. 幼保小接続期にある子どもたちと「ことば」

幼保小接続期の子どもたちは、「ことば」を介して大きく世界を広げていきます。

それは、口頭での「話しことば」から、文字による「書きことば」への拡大でもあり、とても大きな変化です。

一方で、「ことば」には、このコミュニケーションという役割の他に、思考したり、行動を調整したりする役割もあると言われていています（ルリヤ，1982）。思考することによって考えが整理できるようになると、見通しをもって行動したり、気持ちの調整が上手になっていきます。ことばによって行動が調整できるようになっていくと、大人がそばにいらなくても、自分自身をコントロールしながら生活できるようになっていきます。

私たちは、この大きな変化を伴う幼保小接続期の「ことば」を、幼児期の教育においてどのように育てていったらよいのでしょうか。

Springプロジェクトでは、この「ことば」の育ちについて、「話しことばから書きことばへ」の移行に焦点を絞って取り組んできました。

誤解のないようにお伝えしたいことは、「話しことばから書きことばへ」ということが、就学前の子どもに対してひらがなの読み書きを教え込もうというものではありません。文部科学省（2018）は、幼稚園教育要領の中で「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」として、「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」を挙げています。この姿が、一体どのようなものであるのかを丁寧に考え、検証することを目指しました。

Springプロジェクトの取り組みを通して、書きことば（文字）への感覚は、文字を直接扱わないあそびの中で十分に育むことができること、そして、そのあそびは5領域にわたる総合的な学びの場になり得ることを研究協力園の先生方と実感することができました。

卒園に向けて、「小学校に行ったら勉強を頑張りたい」と夢と憧れに満ちた子どもたちが、その思いをもち続け、小学校で学習に取り組み、自分らしい毎日を送ってくれたら・・・そんな思いのもとでSpringプログラムを整備してきました。

このプログラムが、これから小学校に入学していく子どもたち、また、読んだり書いたりする活動を苦手とする子どもたちに、少しでも役立てていただけたら、こんなに幸せなことはありません。



2. 読み書き学習とそれを「支える力」の育ち

幼児期の終わりまでに育ててほしい姿のひとつに、「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」があります。文字への関心や感覚を育てるために、幼児期の教育では様々な環境の工夫がなされています。歌詞を見ながら歌ったり、お手紙ごっこをしたり、絵本を読んだり、お散歩などで看板を眺めたり。これらの多くは、文字や記号に直接触れる活動です。

一方、子どもたちの中には、文字への興味・関心が低いように見える子や、文字を読みたくても読む力が育ちにくい子がいます。子どもたちが、文字に自然となじんでいくためには、それを「支える力（学習基礎スキル）」を丁寧に育てていくことが大切です。

図1に、読み書きの学習段階とそれを「支える力」の関係を表しました。

ひらがなの習得は、音韻意識と視空間認知、聴覚記憶、基本語彙に支えられています。これらは、直接文字に触れなくても育つものであり、幼児期の教育の中でしばしば取り組まれる「手あそび」や「ことばあそび」の中で育てることができます。

また、これらの「支える力」がどのような順序でひらがなの習得に関わっているのかを示したものが、図2です。ここに、とても小さなステップで「支える力」になじんでいくためのコツを見ることが出来ます。

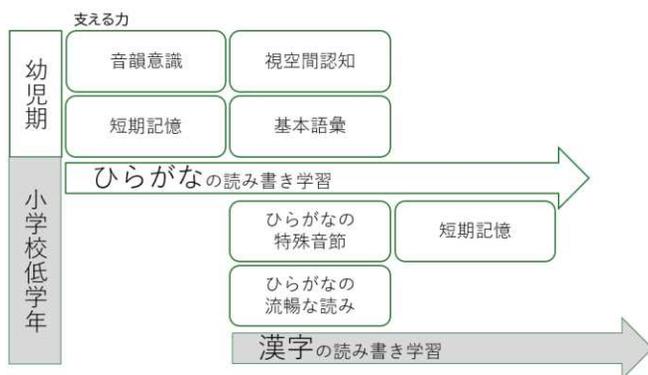


図1. ひらがなと漢字の読み書き学習を支える力

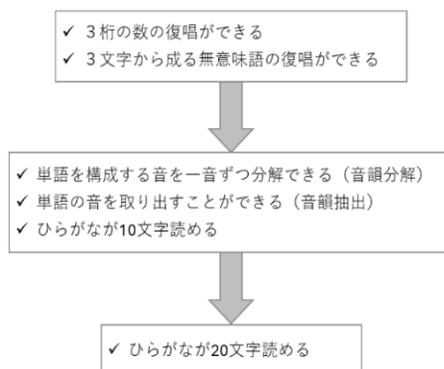


図2. ひらがなの読み書き学習を支える力の達成順序



3. Springプログラムにおける4つの「支える力」

(1) 音韻意識

Springプログラムで扱っている音韻意識について、以下の3つのキーワードから解説します。

①音韻分解

単語を構成する音を一音一音に分解することを、音韻分解と言います。「いぬ」という単語であれば「い」と「ぬ」に分解できますし、「あたま」という単語は「あ」と「た」と「ま」に分解できます。

ひらがなは、原則、ひとつの文字にひとつの音が当てはまりますので、音韻分解ができることは、文字と音との対応関係に気が付くはじめての一步となります。

②音韻抽出

音韻分解ができるようになると、単語の最初の音や、最後の音に着目して、その音だけを取り出すことができるようになります。これが、音韻抽出です。

「いか」という単語の最初の音は「い」であり、「やさい」という単語の最後の音も「い」です。この抽出がスムーズにできるようになると、しりとりあそびを楽しむことができます。

音韻抽出は、何番目の音を取り出すかで難しさが異なります。単語の最初の音や最後の音を取り出すよりも、間の音を取り出す方が難しくなります。

③音韻削除

音韻抽出ができるようになると、取り出した音を取り除いて、別のことばにするようなことばあそびを楽しむことができるようになります。いわゆる、「た抜きことば」です。「あいす」から「あ」を取り除くと、「いす」ということばになります。

音韻削除が上達すると、ひらがな単語やひらがな文の読みがスムーズになると言われています(原, 2001)。一文字ずつたどどしく読むことから、「ことば」として意味を成す読み方に変化していくことが期待されます。

(2) 聴覚記憶

聴覚記憶は、音声で示された情報を記憶する力です。

ひらがなの読みは、原則、ひとつの文字とひとつの音を対にして学習することが必要です。文字は視覚情報であり、目の前に残り続けますが、音は発声してからしばらくすると消えてしまいます。聴覚記憶が弱いと、読みを学習する上での負担が大きくなると言われています。

①数唱

聴覚記憶を評価する代表的な課題です。音声で示された数（1，2など）を、聞いた順序で復唱します。

②非単語復唱

単語として存在しない音のまとまりを聞き、聞いた通りに復唱します。例えば、「くるま」は単語として存在しますが、「くまる」は存在しません。非単語の復唱は、音韻意識が関係する聴覚記憶として、読みの学習に影響するとされています。

(3) 視空間認知

Springプログラムで扱っている視空間認知は、以下の2種類です。

①文字弁別

私たちが文字を認識するとき、文字の形を全体像として捉える力と、その文字がどちらの方向を向いているかという位置情報を共に捉える力が必要です。ひらがなの「さ／き／ち」は形がよく似ているため、幼保小接続期の子どもの中には見分けのつかない子もいます。しかし、次第には正しく見分ける力が備わっていくので、1年生の終わりごろになると、読み間違いはかなり減っていきます。

文字の形と位置情報を共に把握する力は、5歳から8歳ごろにかけて急激に発達することが知られています。

位置を正しく捉えることが苦手な場合には、位置情報に注目できる手がかりを添えてあげると分かりやすくなります。補助線の入った書き取り帳では、「1番のお部屋」のような呼び方で位置情報を表すことがあります。補助線で区切られた4つのお部屋が色別に示された書き取り帳もあり、色の手がかりがあることで、とても分かりやすくなるという子どももいます。

②図形弁別

文字を認識するためには、「そ」と「て」、「て」と「と」のように、形の似た文字の全体像を見比べたり、細かい部品の違いを見比べたり、それらがどこにどのような向きで組み合わせられているのかを判断したりする力が求められます。

そこで、Springアセスメントでは、先行研究（吉田ら，2020）を参考に直線や斜線の組み合わせを識別したり、直線に対して○や△などの図形の位置関係を判断する課題を作成しました。

図形弁別とひらがなの読み書きとの関係は十分に明らかにされていませんが、画数の多い漢字の読み書き学習では、図形弁別の力が関わっていることが報告されています。

(4) 基本語彙

文字は書きことばであるので、その学習には語彙の影響を受けると言われています。Springアセスメントでは、5才児の読み聞かせによく用いられる複数の絵本から、使用頻度の多い単語を抜き出してことばのリストを作成し、独自に課題を作成しました。

ひらがなを読むためには、これら4つの力以外にも様々な要素が必要です。Springプログラムでは、幼児期の教育の現場での取り組みやすさを考え、まずはこの4つの力について、あそびを通して育もうとチャレンジしてきました。



4. 学ぶことを楽しむために ～スモールステップで～

(1) 目に見えない「難しさ」を丁寧に聞き取る

私たちは、Springアセスメントを開発する上で、延べ1200名を超えるデータを収集してきました。

初回こそ、子どもたちは見知らぬ私たちに緊張していましたが、繰り返し会う内に、「またやるの？ 僕、もうできるけどね。」などと言いながら、快く協力をしてくれました。

そんな中で、私たちは、あることに気がつきました。

子どもたちがクイズ（アセスメント課題）に対して抵抗なくスラスラ答えるので、「簡単だった？」と尋ねると、「う～ん。簡単なものもあったけど、結構むずかしかったよ。」と答える子が何人もいたのです。もちろん、「簡単だった」という一言で終わる子もいましたが、何の苦労もなさそうに取り組んでいるのに「難しい」と感じていたんだなというのは、行動観察だけでは分からないことでした。

子どもが学ぶことにつまずいた時、あるいは、つまずきそうな時、私たちは、学びのステップを少しだけ低くして、子どもたちに過度な負担を強いることなく次のステージに進めるよう工夫します。

その時の判断基準は、行動や発言の「正確さ」と「素早さ」であることが多いです。頻繁に誤ったり、反応するまでに時間がかかり過ぎると、多くの大人は「難しいのかな？」と捉え、子どもにヒントを与え、次に進めるよう働きかけます。一方で、短時間で正確に反応できる子どもに、スモールステップを設けることは、ほとんどありません。

「日頃、特に目立った問題はなかったのだけれど・・・」という子どもが、突然やる気をなくしたり、登園や登校を渋る背景には、このような目に見えない「難しさ」に直面しているのかもしれない。

改めて、子どもの行動面だけでなく、どう感じたかを聞き取り、学びのステージを確認することが大切であると感じた一コマでした。

(2) 小さいけれど大きな段差

調査を通して気がついたことは、もうひとつあります。

音韻抽出課題や音韻削除課題で、こんなことがありました。

音韻操作課題では、「いぬ」などの2文字で構成される単語と、「あたま」のように3文字で構成される単語が使用されます。大人からすると、2文字でも3文字でも短い単語なので、難易度においてはそれほど差がないように感じます。

ところが、音韻抽出課題や音韻削除課題で、2文字ならすんなり正解できるのに、3文字になると誤ったり、正解するまでに長い時間を要する子どもが何人もいました。

また、音韻抽出課題では、3文字単語の最初の音（あたまの「あ」）を取り出すのはスムーズでも、最後の音（あたまの「ま」）を取り出すために、何度も何度もそのことばを唱えて考える子がいました。

その様子は、音韻削除課題でより顕著でした。何度もことばを唱えて、どうやって考えたら答えにたどり着くのか、指を使ったり、目の前にない架空のマグネットを頭の中で操作したり、その子なりに問題の解き方をを一生懸命に考えている様子が伝わってきました。

これほど2文字の単語と3文字の単語における難易度の差について目の当たりにすることは、これまでありませんでした。

普段、子どもに語りかけることばや学習で用いることばについて、「意味を知っているかどうか」という点は配慮されることが多いですが、単語の長さ（モーラ数とも言います）に配慮することは、少ないのではないのでしょうか。ここに、子どもたちの学びにおける、小さいけれど大きな段差があるようです。

Springプロジェクトにご協力くださったある小学校の先生が、「予定帳を書かせるのに、なじみがあると思って『きゅうしょくぎ（給食着）』と予定黒板に書いていたけれど、Springプロジェクトをきっかけに『はくい（白衣）』と短く書くようにした。これが、意外とよかった。」と報告してくださいました。

幼児期の教育においても、2文字ことばだけでしりとりをしたり、3文字ことばだけを集めてみたり、いろいろなあそびを通じて楽しく学ぶ工夫ができそうです。



5. 学びの多様性

「ひらがなが読める」とは

ひらがなは一文字単位で読めるからと言って、単語や文が読めるかということ、そう単純ではないことが分かっています。

これまで、ひらがなの読み学習に関する研究では、音韻意識が関わっているということが繰り返し報告されてきました（天野，1986など）。

Springプログラムも、この先行研究に基づいて取り組んできました。

ところが、音韻意識が育っていなくても、ひらがなが読めるようになる子どもがいるという研究もいくつか存在します。

音韻意識とひらがな読み

発達障害のある6歳児を対象に、モーラ分解・モーラ抽出（以下、音韻分解・音韻抽出）とひらがな一文字読み、ひらがな単語の読みとの関係について調べた研究があります（大六，1995）。

これによると、対象事例は、音韻分解が未発達であるにも関わらず、ひらがな71字（基本音節文字71字）のうち50字以上を読めたことを報告しました。また、この事例は、50字以上のひらがなが読めるにも関わらず、ひらがな単語の意味を読み取ることはできなかったと述べています。その後、音韻分解と音韻抽出をトレーニングした結果、音韻抽出の成熟に伴いひらがな単語の意味を読み取ることができるようになったことから、音韻抽出はひらがな単語の意味を理解するための必須条件であると結論づけました。

同様の報告が、日高ら（2007）の研究でもなされています。

音韻意識が発達途上の子どもの中にも、音韻抽出が成熟していないのに、ひらがなを読むことのできる事例が存在します。そして、Springあそびプログラムのクラスワイド支援は、このような子どもの音韻抽出の力を育むことができるということも分かってきました（赤塚ら，2024）。



6. 多様な子どもの支援

外国にルーツのある子どもへのあそびを通じた支援

静岡県は、全国的に見ても外国にルーツのある子どもが多く生活をしている地域です。幼児教育施設においても、外国にルーツのある子どもが複数名在籍している園がいくつかあります。

これらの子どもたちは、園生活において、生活様式や言語の違いに戸惑うことがしばしばです。多くの園では、各家庭で使用される言語の重要性に配慮しつつ、園での過ごしやすさを向上するために、コミュニケーション方法を様々に工夫しています。

外国にルーツのある子どもたちの日本語の獲得速度は、実に多様です。日本語の習得が園生活の長さと一致する事例ばかりではなく、このような子どもに対する支援方法はまだ十分に整っていません。

ここでは、外国にルーツのある子どもに対するSpringあそびプログラムの効果について、ご紹介します。

話しことばと音韻意識

乳児クラスから日本の保育所に在籍していたCちゃん（5才）。はっきり話せる日本語がとても少なく、「ねずみないなった（ねずみがいなくなった）」のように助詞が欠落したり、語の誤用が顕著でした。特定の話題に対しては積極的に話そうとしますが、会話にはならず、パターンの応答が中心のコミュニケーションでした。

この事例に対して、音韻分解や音韻抽出を促すあそび（個別のあそびプログラムのページ参照）を実施したところ、約4カ月後には会話の中で助詞を用いる頻度が大幅に増えました。また、会話における発話量が増えたにも関わらず、不明瞭で聞き取れなかった日本語が136語から41語に減りました。この経過に伴い、パターンの応答が減り、自然な日本語の会話を楽しめるようになりました。

限定的な事例検討ではありますが、日本語における単語のまとまりを正確に把握したり、助詞を正しく使用したりできるようになった背景には、音韻操作を通じて日本語由来の音への気付きが促されたと考えられます。この点については、今後さらなる検討が必要です。

おわりに

「幼児教育と小学校教育の円滑な接続」の重要性は近年ますます認識されるようになってきました。その理由の一つに、不登校等生徒指導上の諸課題が低学年から深刻になってきており、円滑な接続がその未然防止の役割を果たすことが期待されていることが考えられます。

子どもたちは、「これから勉強や運動をがんばりたい」「友だちをたくさんつくりたい」など、期待と希望を胸に小学校に入学します。しかし、がんばってもがんばってもできない、分からないという局面に立った時、それを子どもだけではなかなか乗り越えられません。特に入学当初の子どもは、発達段階から考えても、自らの不安や不満を自覚し、大人に伝えることが難しく、この不安や不満が違う形で表出した一つが不登校であると捉えることができます。この時期につまずくことはその後の学校生活や成長に大きな負の影響を与えかねません。

Springプロジェクトは、小学校入学前後の子どもの不安や不満を少しでも軽減し、学習や生活に主体的に自己を発揮しながら取り組めるように、就学前にできることを提案しています。しかし、子ども一人一人の発達や学びは幼児期と児童期ではっきり分かれるものではありません。だから、Springプロジェクトは小学校以降においても役立つことがたくさんあります。例えば、保育プログラムのアセスメントを小学1年生の学級でも実施して、一人一人の特性に応じた支援の参考にすることができます。あそびのプログラムを朝の会や帰りの会で実施し、ことばに対する感覚を楽しみながら伸ばすことができます。通級による指導や日本語指導などの個別指導においても、個々の様子に応じてアレンジしながら活用できるプログラムがあります。何より小学校以降の教員が幼児期の教育を理解し、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を生かした教育活動について具体的なイメージをもつことの一助になると考えます。

本書が、保育者のみならず学校の教職員にとっても有意義なものになることを期待しています。

伊豆の国市立大仁北小学校長

福井孝子

(前 幼児教育推進室長)

引用・参考文献

- 1) 赤塚めぐみ・森下未奈子・飯島知子（2024）就学前児における音韻操作発達の背景要因に関する検討. 常葉大学保育学部紀要,11,41-48.
- 2) 赤塚めぐみ・森下未奈子（2024）音韻抽出に依存しない読み学習プロセスとその支援について. 発達障害研究,46(3), 237-242.
- 3) 天野清（1986）子どものかな文字の習得過程. 秋山書店.
- 4) 天野清（2006）学習障害の予防教育への探求：読み書き入門教育プログラムの開発. 中央大学出版部.
- 5) 大六一志（1995）モーラに対する意識はかな文字の読み習得の必要条件か？. 心理学研究,66(4),253-260.
- 6) 原恵子（2001）健常児における音韻意識の発達. 聴能言語学研究,18(1),10-18.
- 7) 日高希美・橋本創一・大伴潔（2007）健常幼児と発達障害児の音韻意識の発達過程と文字獲得との関連について. 東京学芸大学紀要総合教育科学系,58,405-413.
- 8) 深川美也子（2021）就学前から1年生のひらがなの土台づくり「音韻意識」と発達保障：読み書き困難のアセスメントと明日から使える教材・教具・指導法.文理閣.
- 9) 菅野和恵・池田由紀江（2006）ダウン症児・者における非単語の記憶：長期的な語彙知識の役割. 特殊教育学研究,44(2),91-101.
- 10) 小池敏英・雲井未歎・窪島務（2003）LD児のためのひらがな・漢字支援：個別支援に活かす書字教材. あいり出版.
- 11) ルリヤ, A. R., 天野清訳（1982）言語と意識. 金子書房
- 12) 文部科学省（2018）幼稚園教育要領解説.
https://www.mext.go.jp/content/1384661_3_3.pdf
- 13) 文部科学省（2022）通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査報告（令和4年）について.
https://www.mext.go.jp/content/20230524-mext-tokubetu01-000026255_01.pdf
- 14) 東京都教育委員会（2017）「読めた」「わかった」「できた」読み書きアセスメント.
https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/document/special_needs_education/guideline.html.
- 15) 上野一彦・名越斉子・小貫悟（2008）PVT-R 絵画語い発達検査. 日本文化科学社.
- 16) 吉田有里・中知華穂・銘苺実土・高橋昇希・小池敏英・藤野博（2020）小学校通常の学級における漢字書き困難と視覚認知能力との関連に関する検討：多画数効果に着目して. 学校教育学研究論集,41,29043.

ダウンロード資料 一覧

本冊子内で紹介した資料や教材（ **資料** のマークのあるもの）は、静岡県幼児教育センターのホームページからダウンロードしてご利用いただけます。

Q 静岡県幼児教育センター | 検索



ただいま**準備中**のため、令和7年6月以降の掲載となります。
掲載開始まで、お待ちください。

第2章

Springアセスメントキット

- P 22 ○実施マニュアル
- 問題冊子
- 記録用紙
- 音韻操作の台紙

Springあそびプログラム 教材

- P 40 はんたいことば探検隊 ○はんたいことばリスト
- P 44 変身！ことばさがし ○変身！ことば絵カード
- P 48 どちらの絵かな？ ○問題文リスト
- イラストカード
- P 52 音韻すごろく ○すごろくシート
- さいころ用イラスト
- P 54 そろえてカードポスト ○イラストカード
- 補助シート
- P 56 ねこのしっぽ ○動物イラストマグネット
- P 58 音と動きのかるた ○かるた（読み札 / 絵札）

第3章

保育SW ケース会議資料

- P 76 ○個別支援シート

幼保小連携 一人一人のよさをつなぐツール

- P 82 ○1年生スタート応援シート

研究冊子作成者（職名は令和7年2月21日現在）

研究リーダー 赤塚 めぐみ（常葉大学保育学部准教授）
石川 和巳（静岡県教育委員会義務教育課幼児教育推進室長）
増田 澄子（静岡県教育委員会義務教育課幼児教育推進室班長）
森下 未奈子（静岡県教育委員会義務教育課幼児教育推進室インクルーシブ支援員）
柴原 早苗（静岡県教育委員会義務教育課幼児教育推進室保育ソーシャルワーカー）
大村 千容子（静岡県教育委員会義務教育課幼児教育推進室幼児教育支援員）
山梨 あづさ（沼津市教育委員会教育企画課指導主事）
土屋 一巳（静岡県教育委員会静岡教育事務所地域支援課参事）
鈴木 晶子（静岡県教育委員会義務教育課指導班教育主査）
勝又 舞子（静岡県教育委員会義務教育課幼児教育推進室教育主査）
三輪 直司（静岡県教育委員会義務教育課幼児教育推進室教育主任）
岩本 智明（沼津市立香貫小学校教諭）
生松 朋子（沼津市教育委員会学校教育課指導主事）
福井 孝子（伊豆の国市立大仁北小学校長）

研究協力園・協力校

協力園	沼津市立金岡保育所	協力校	沼津市立金岡小学校
	後藤学園こずわ幼稚園		沼津市立片浜小学校
	浮保会浮島保育園		沼津市立浮島小学校
	沼津市立大平幼稚園		沼津市立大平小学校
	沼津市立大平保育所		磐田市立磐田中部小学校
	磐田市立磐田南幼稚園		磐田市立磐田西小学校
	磐田市立磐田なかよしこども園		磐田市立磐田南小学校
	染葉会豊田みなみ保育園		磐田市立豊田南小学校
			静岡県立沼津特別支援学校

Springプログラム調査・作成協力者

飯島 知子	山下 舞	聖隷こども発達支援センター かるみあ
	石川 映美	聖隷こども発達支援センター 和合
中田 優衣	大石 真未	
二藤 那月	兼子 菜々響	
西村 遥		

指導・助言

スーパーバイザー 小池 敏英（尚絅学院大学特任教授）

Shizuoka Primary - education system "ring"



静岡県幼児教育センター
Spring プロジェクト